

関川村 下関地区 住民アンケート 分析レポート

～結果から何が見えてくるか？～

令和4年3月

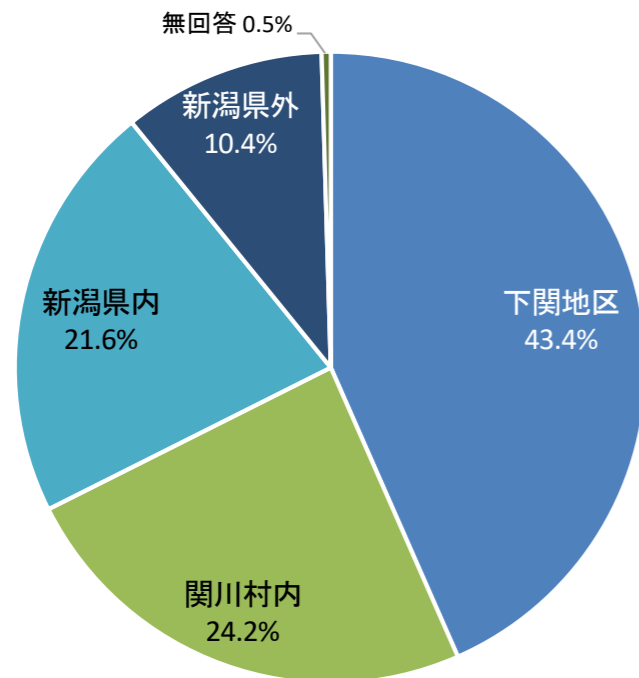
NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター

中学生以上の全住民アンケートの実施

配布数：932通

回収数：645通

回収率：**69.2%**



回答者属性（出生地別）

決して低くは無い回収率



地域住民の意向が、ある程度反映されているデータである

下関地区 住民アンケート

- 本アンケートは、住民一人一人の考えを把握し、世代別・男女別に日頃思っている考え・意見を整理するため、中学生以上の方に対して行っています。
- 回答は無記名でお願いいたします。
- 回答の結果は、個人を特定しない形で集計・分析し、今後の地域づくりに役立てていきます。
- アンケート用紙は、一人ひとり提出していただきますので、家族で意見が違っても構いません。思ったことをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢) 1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 男性 ・ 女性

問2 あなたの生まれたところはどこですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 下関地区 2. 関川村内(下関地区を除く) 3. 新潟県内 4. 新潟県外

問3 あなたの仕事にあてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 農業 2. 林業 3. 漁業
4. 自営業 5. 会社員 6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト 8. 専業主婦(夫) 9. 中学生
10. 高校生・高専生 11. 大学生・短大生・専門学校生
12. その他() 13. 無職

※学生及び仕事されている方は、以下もお答えください。

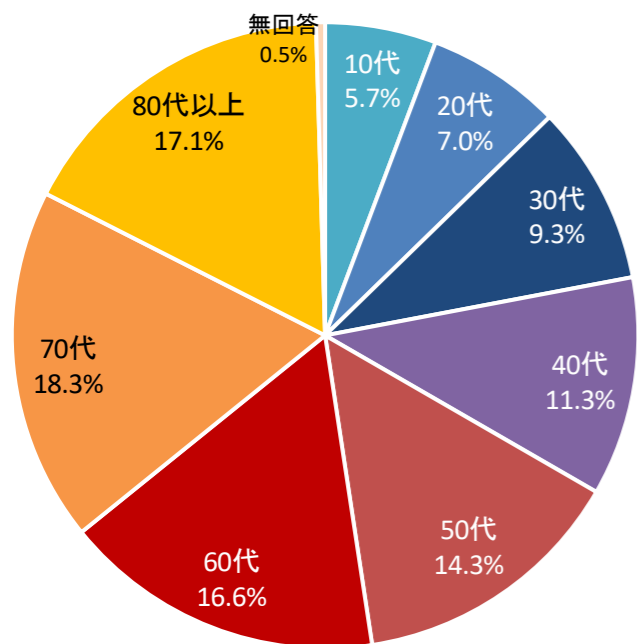
問3-2 休日はいつですか？(祝日を除く)

1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ
4. 平日 5. 不定期

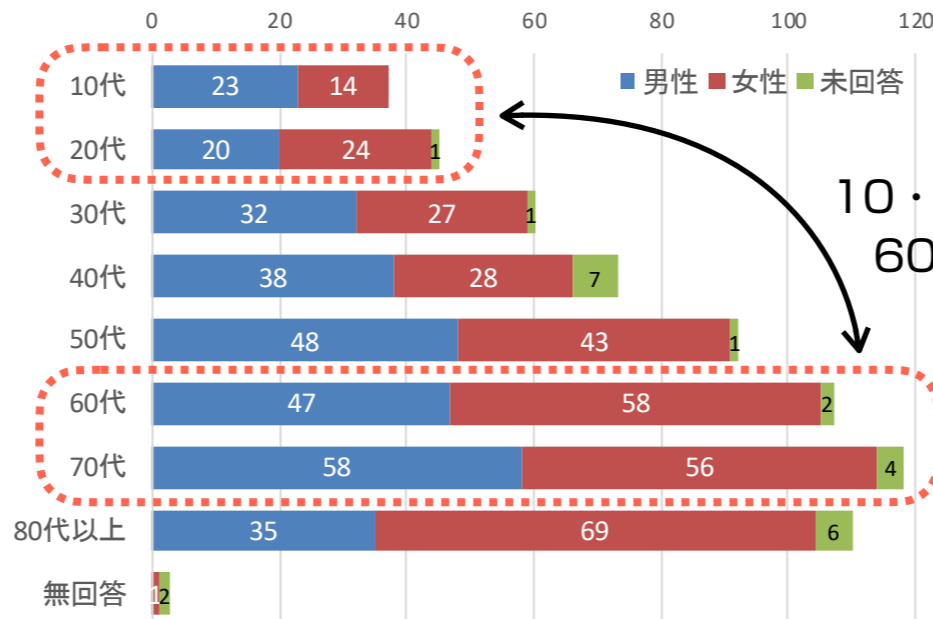
問4 農林業の作業(手伝いも含む)をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。

1. 作業をしている 2. 作業をしていない

回答者属性 (年代別)



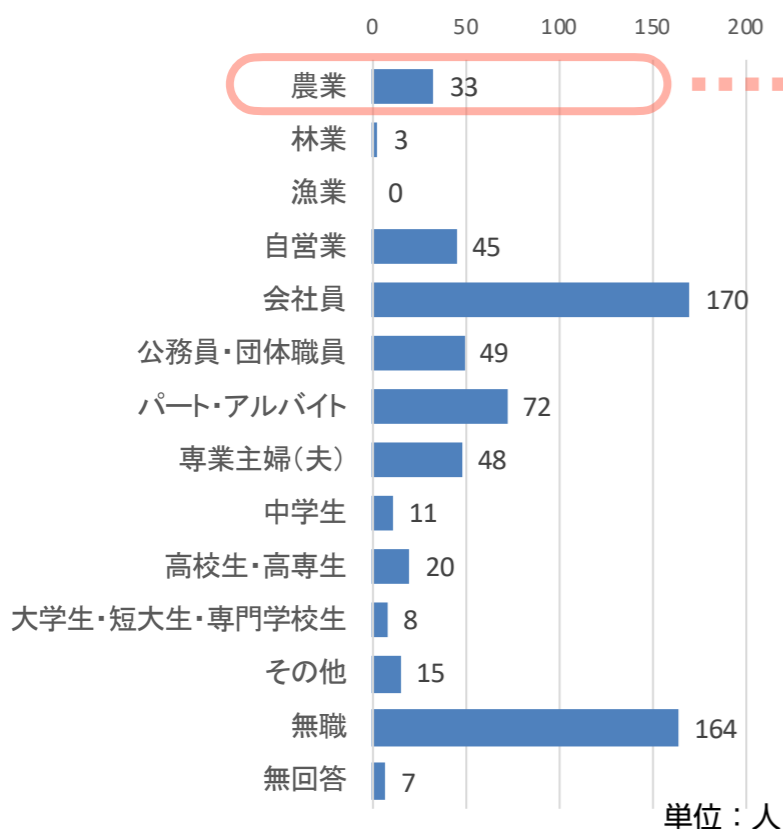
回答者属性 (年代別×男女別)



若者・中堅世代は少数派。多数決では年配層には叶わない。

10・20代は60・70代の4割以下

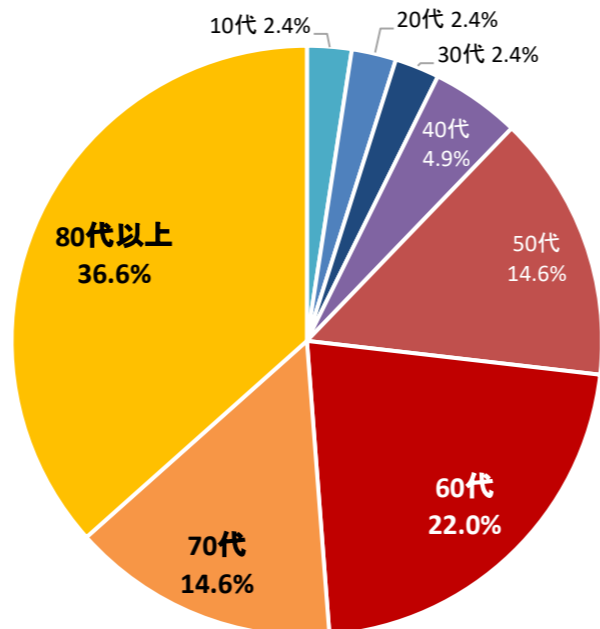
そのため、アンケート結果は、数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。



回答者属性 (職業)

農業従事者の年代構成 (割合)

※専業33人+兼業7人=41人



農業従事者の

73.2%が60代以上

農作業従事者の年代構成

年代	農業従事者	農作業を手伝っている
10代	1	2
20代	1	4
30代	1	3
40代	2	14
50代	6	17
60代	9	20
70代	6	32
80代	15	25
計	41	117

将来的に農地の維持管理は
どうなる!?

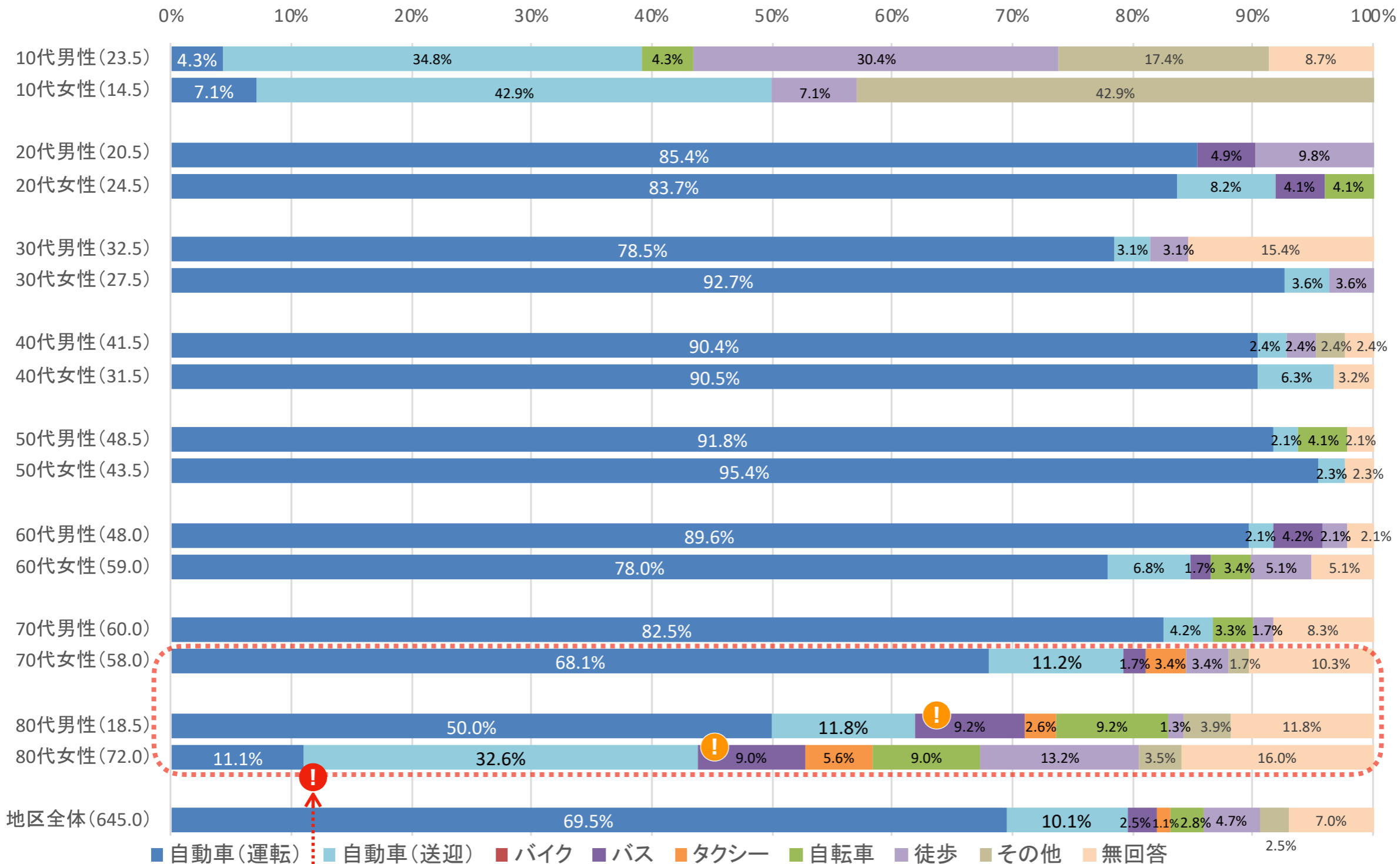
農作業を手伝っている人の約2/3は60代以上

20年後は15人程度!?

年代別・男女別の日常的な交通手段

関川村下関地区 (2022)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



将来的に送迎する側の人数が減少すると移動困難者が増加する可能性は高い。

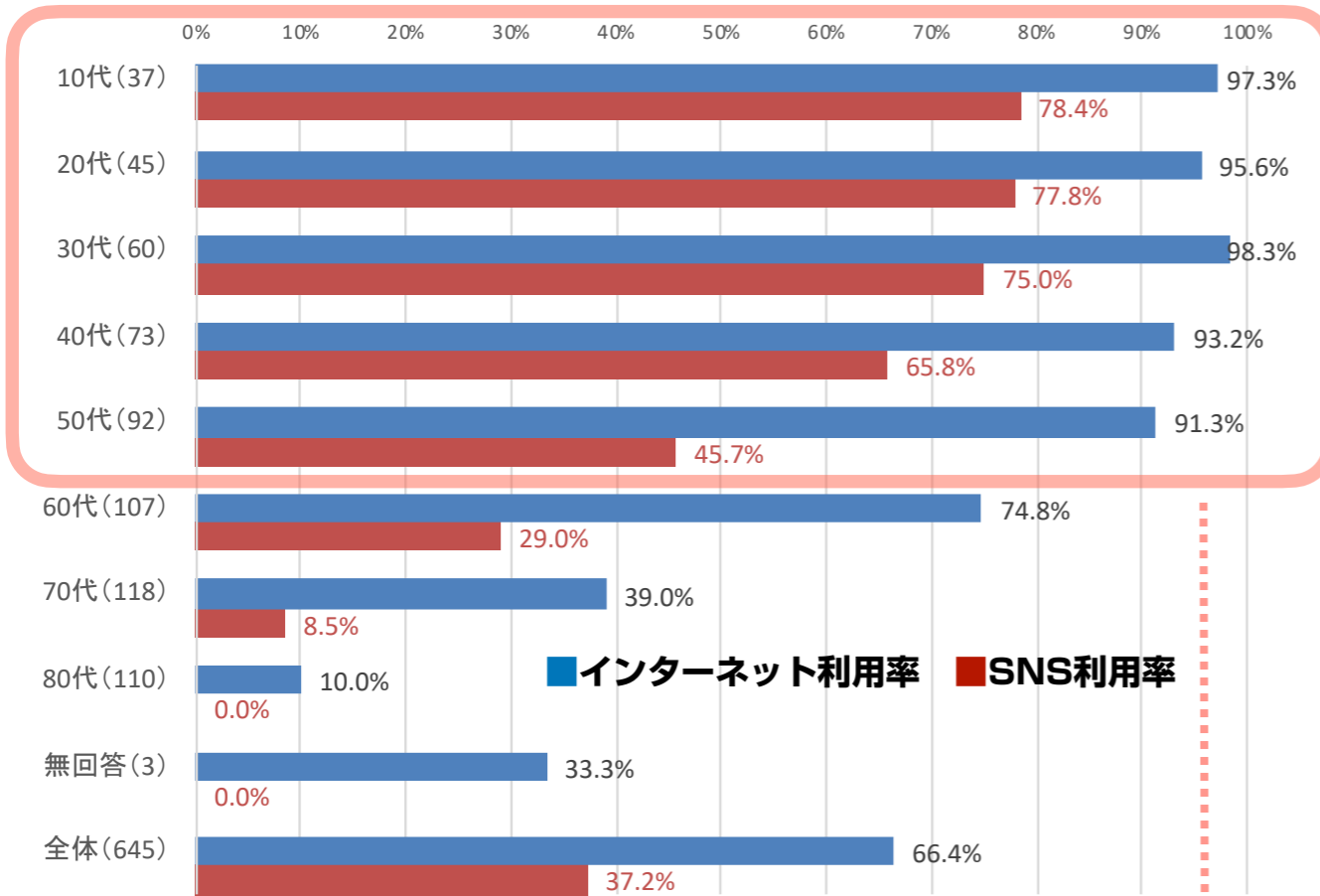
❗ 80代 (女性は70代) になると車を自分で運転する人の割合が減少

+

❗ 「家族等の送迎」「バス」「タクシー」「自転車」の割合が増加



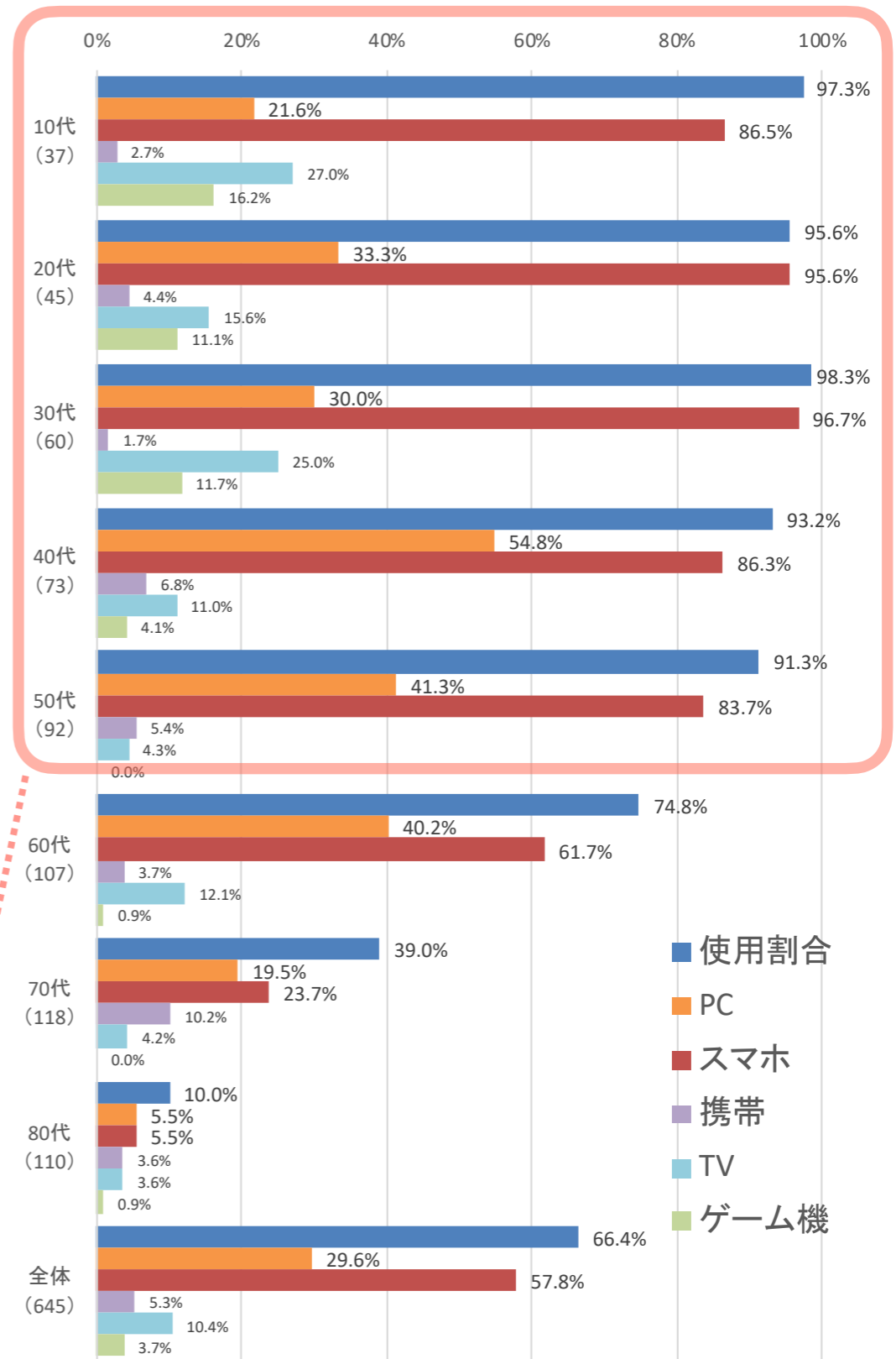
年代別インターネットの利用率



- 全体の**2/3**がインターネットを利用。
- **50代以下**は**9割以上**がインターネットを利用。(60代でも**7割以上**)
- **大半がスマホ**で利用している。
- 50代以下は**約半数~7割以上**が**SNS**を利用。

50代以下はスマートフォン経由での情報伝達の方が効果的?!

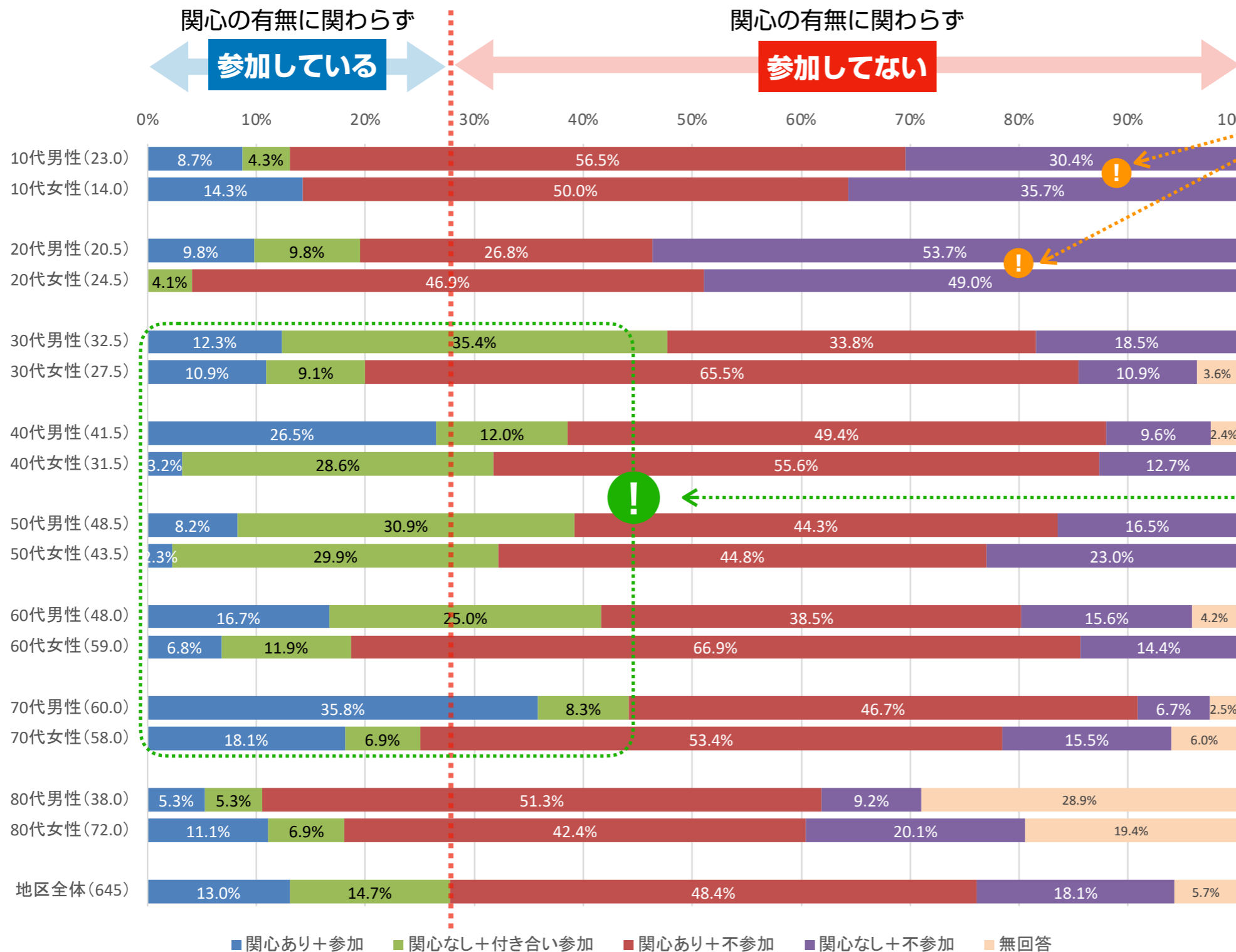
年代別インターネット利用における使用機器



地域活動への関心（年代別・男女別）

関川村下関地区（2022）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



【注意！】
20代の約半数は
関心がないから
参加していない
※10代も3割いる

30～60代は
頑張っている！
全体平均よりも参加している割合は高い

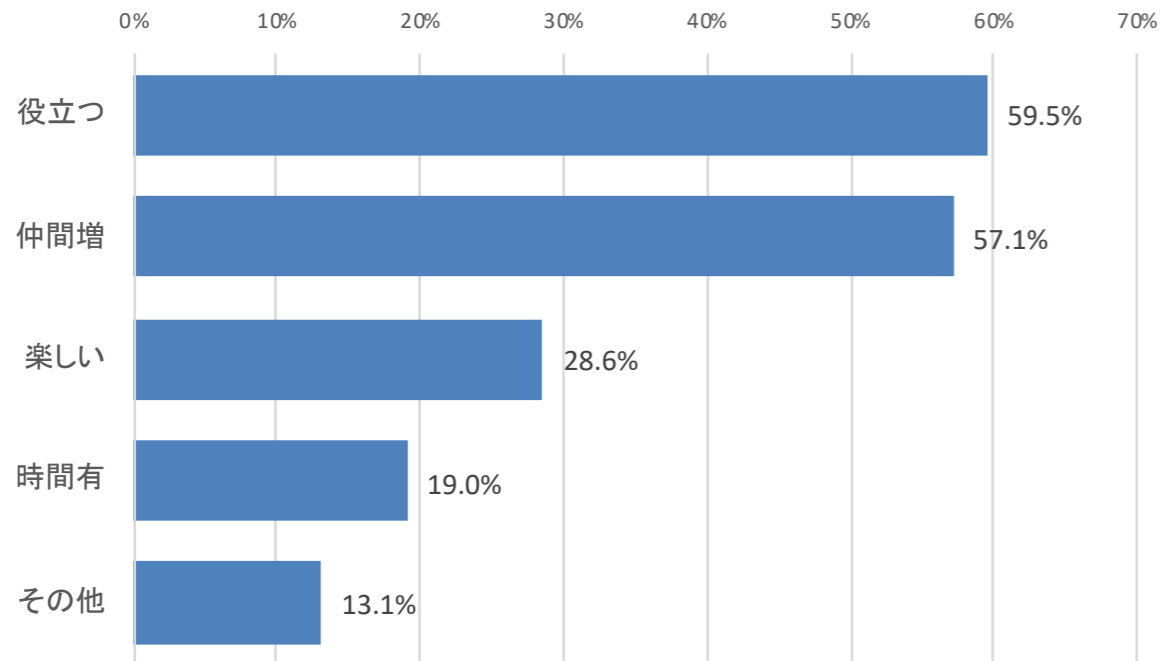
すべての年代で
関心あり+不参加
が3～6割

地域活動に参加していなくとも、かなりの人が「関心はある」
女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。

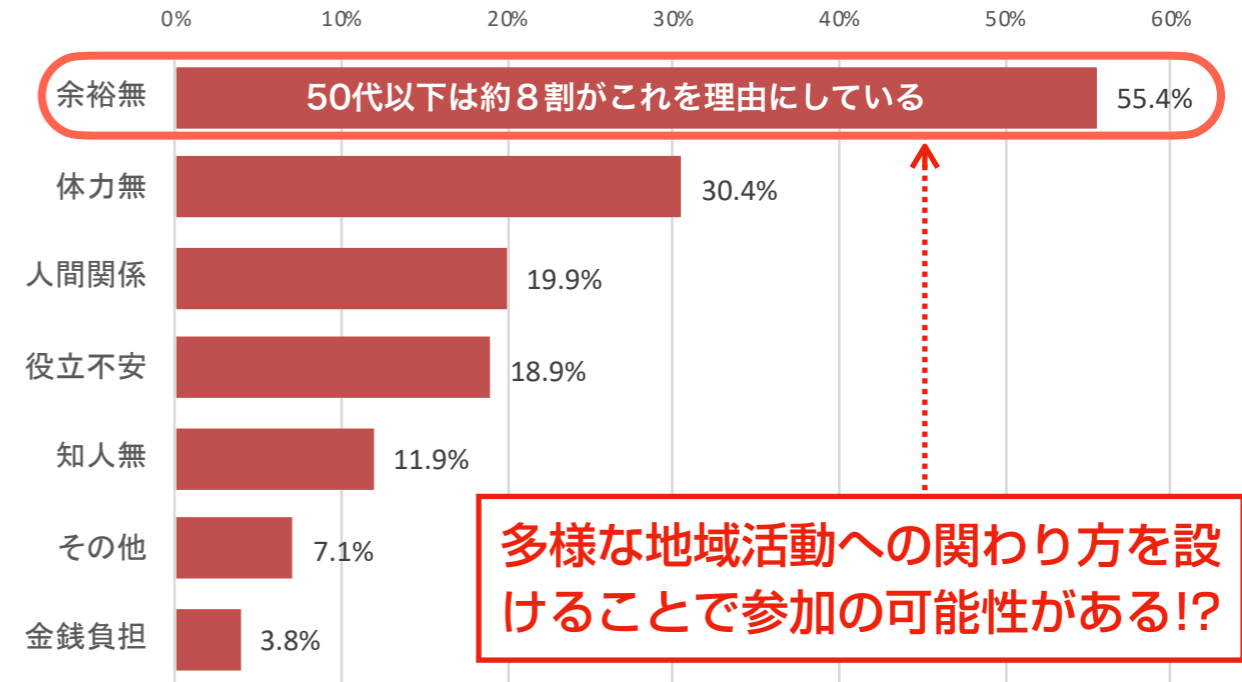
地域活動への関心（それぞれの理由）※複数回答

関川村下関地区（2022）

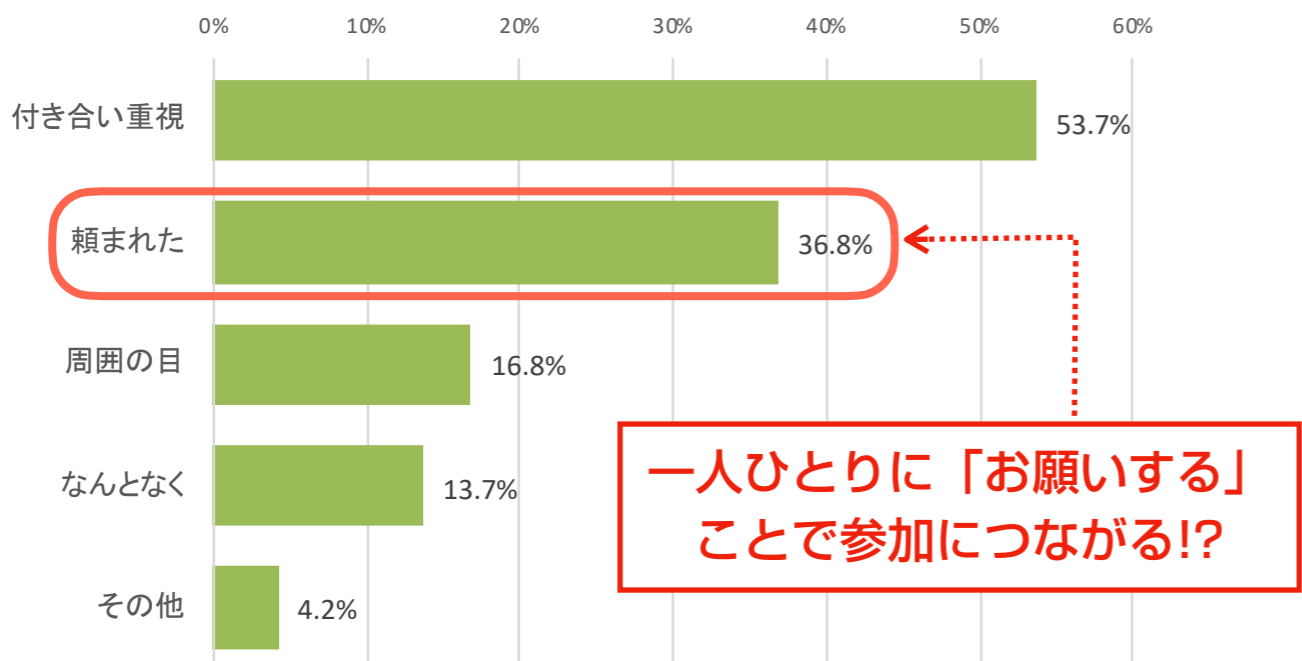
関心あり+参加の理由（回答数84）



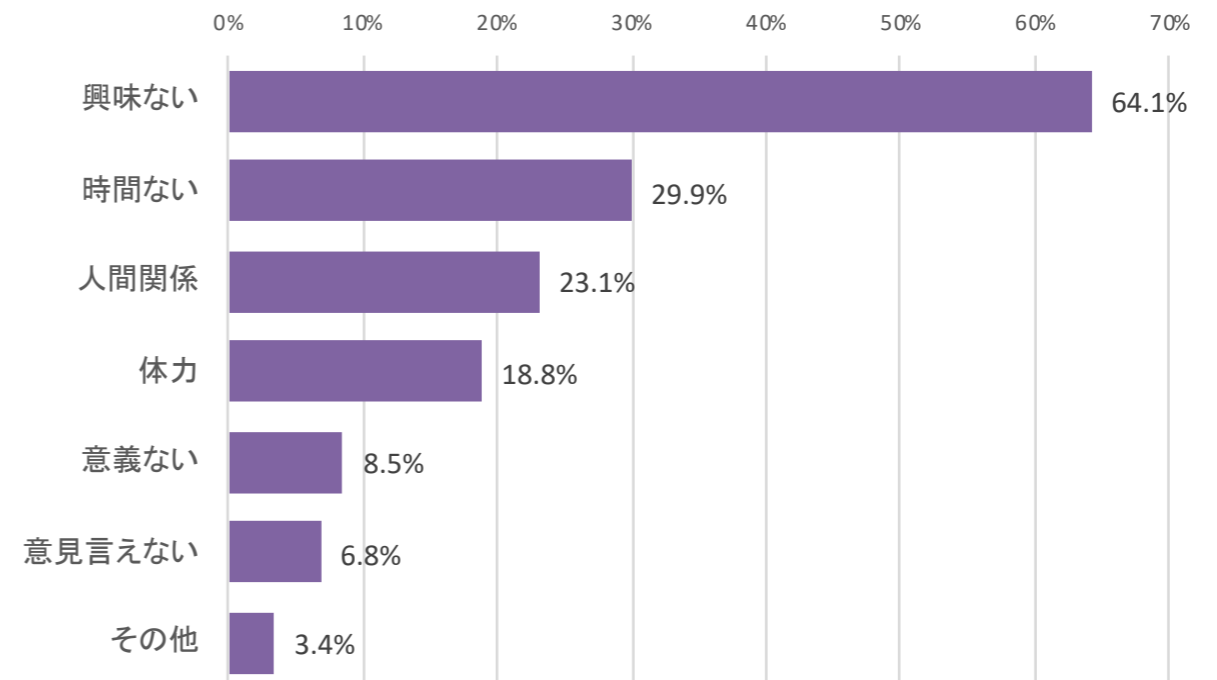
関心あり+不参加の理由（回答数312）



関心なし+付き合い参加の理由（回答数95）

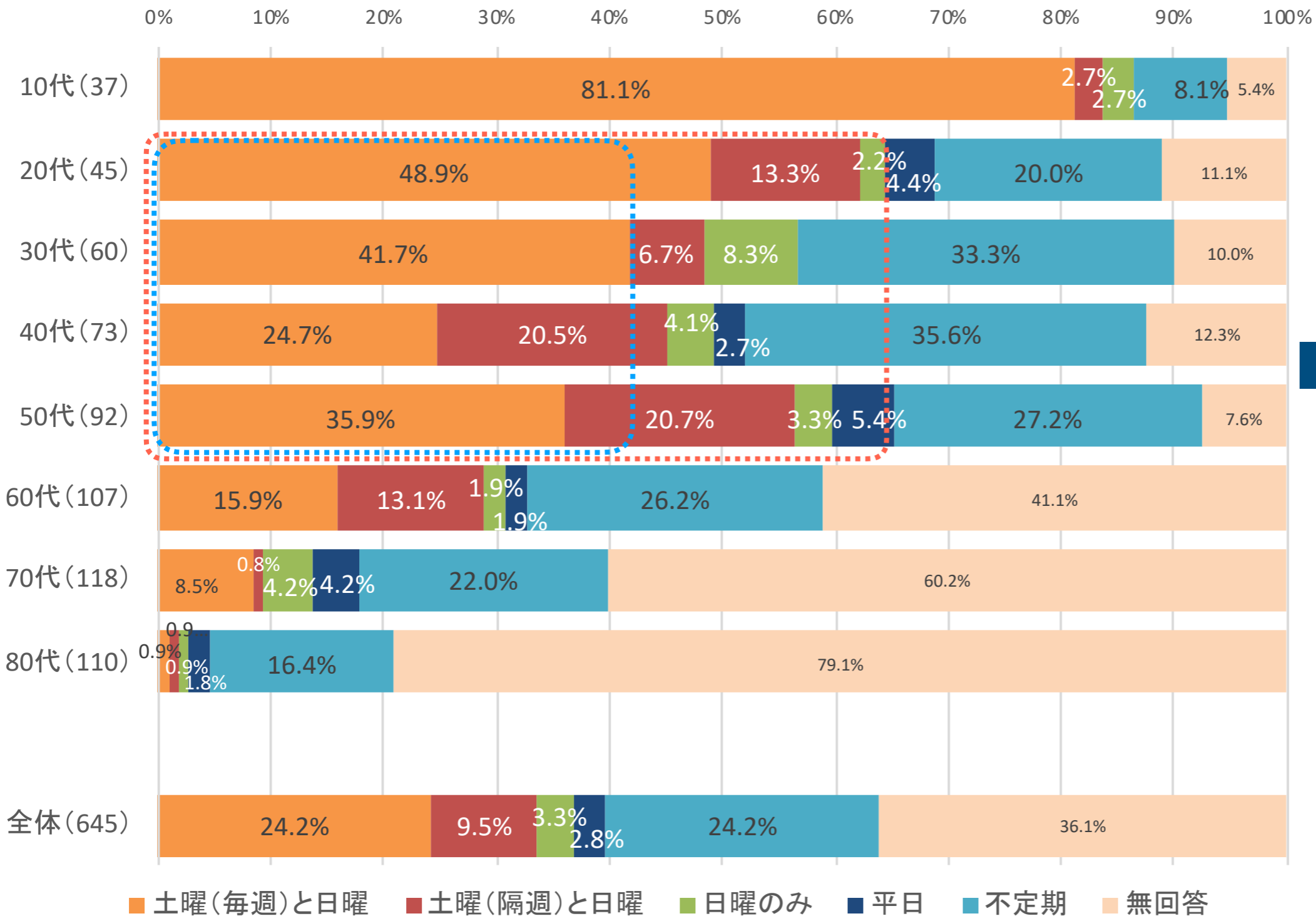


関心なし+不参加の理由（回答数117）



休日はいづか？（年代別）

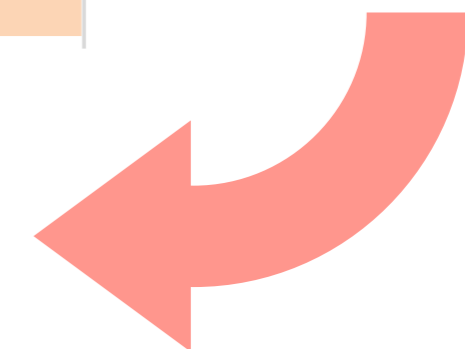
関川村下関地区（2022）



20~50代
 土曜日が毎週休み
2~4割
 日曜日が毎週休み
5~6割
 休みが平日・不定期
2~3割

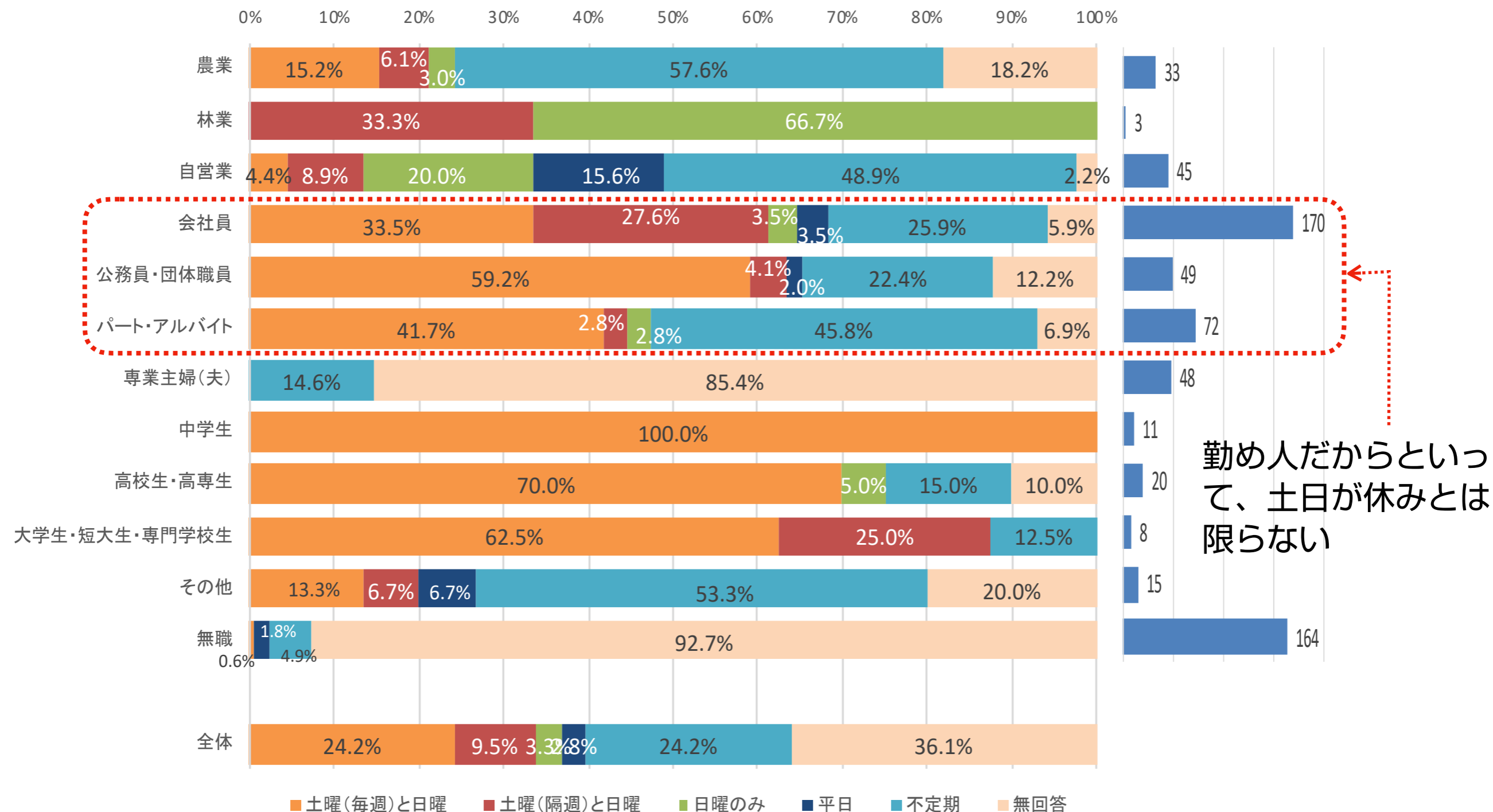
必ずしも土日は休みではない

この世代の参加を求めるのであれば、配慮が必要！



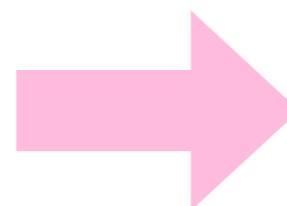
休日はいづか？（職業別）

関川村下関地区（2022）



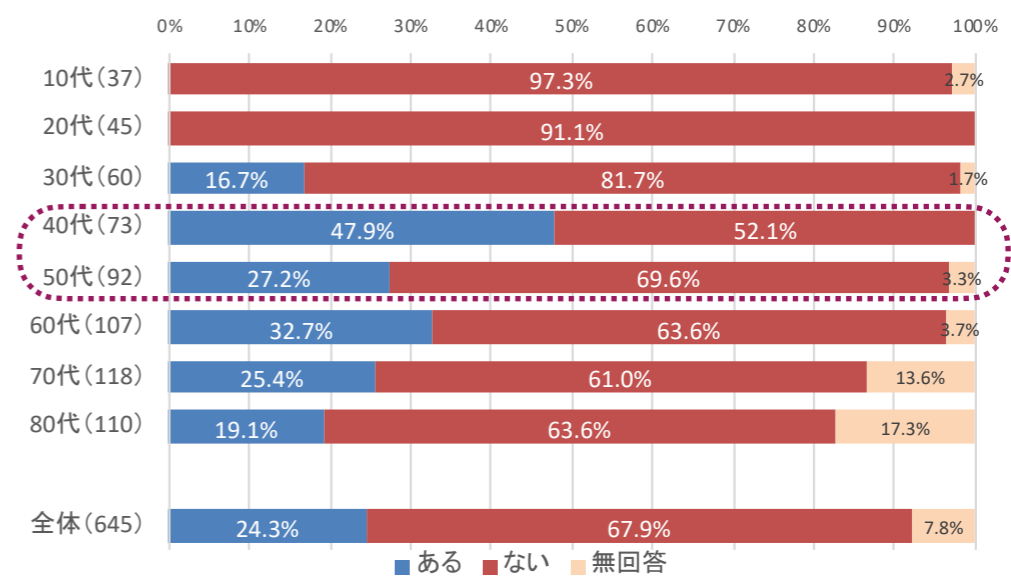
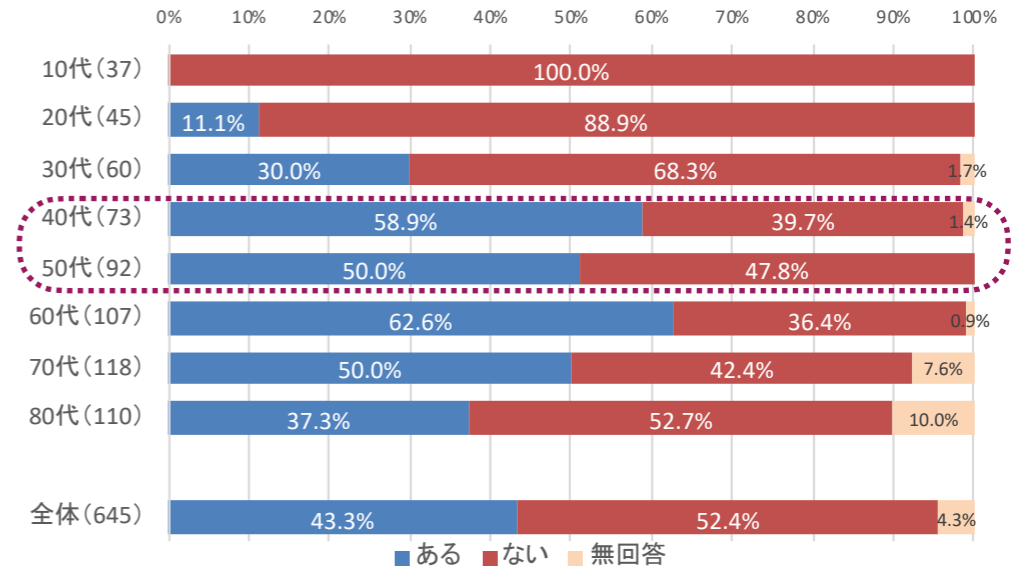
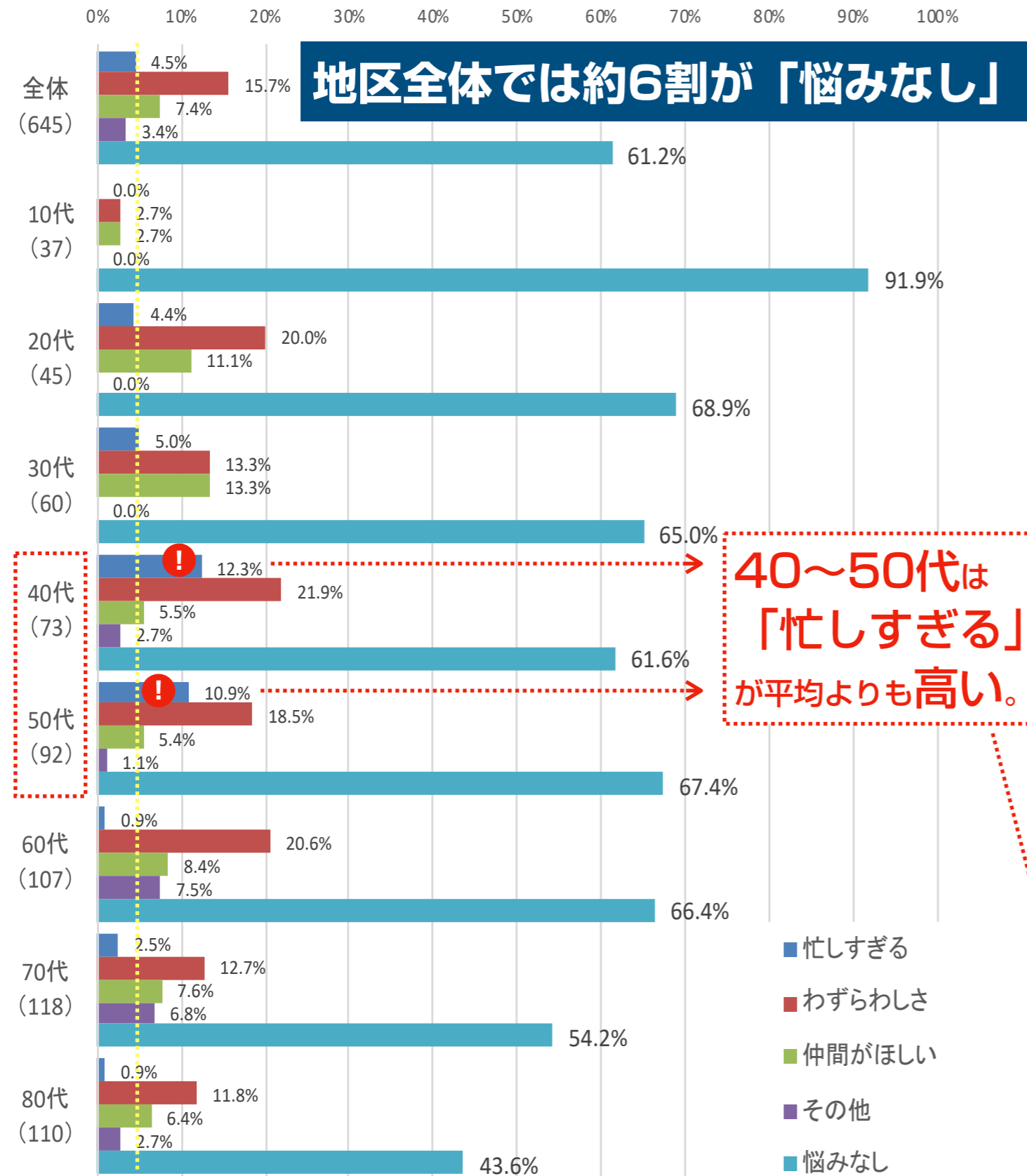
勤め人だからといって、土日が休みとは限らない

当然、職業によっても
休日は異なる



行事・共同作業の曜日
設定には配慮が必要

近所づきあいでの悩み / 会議出席・役員経験の有無 (年代別)



40~50代は「忙しすぎる」が平均よりも高い。

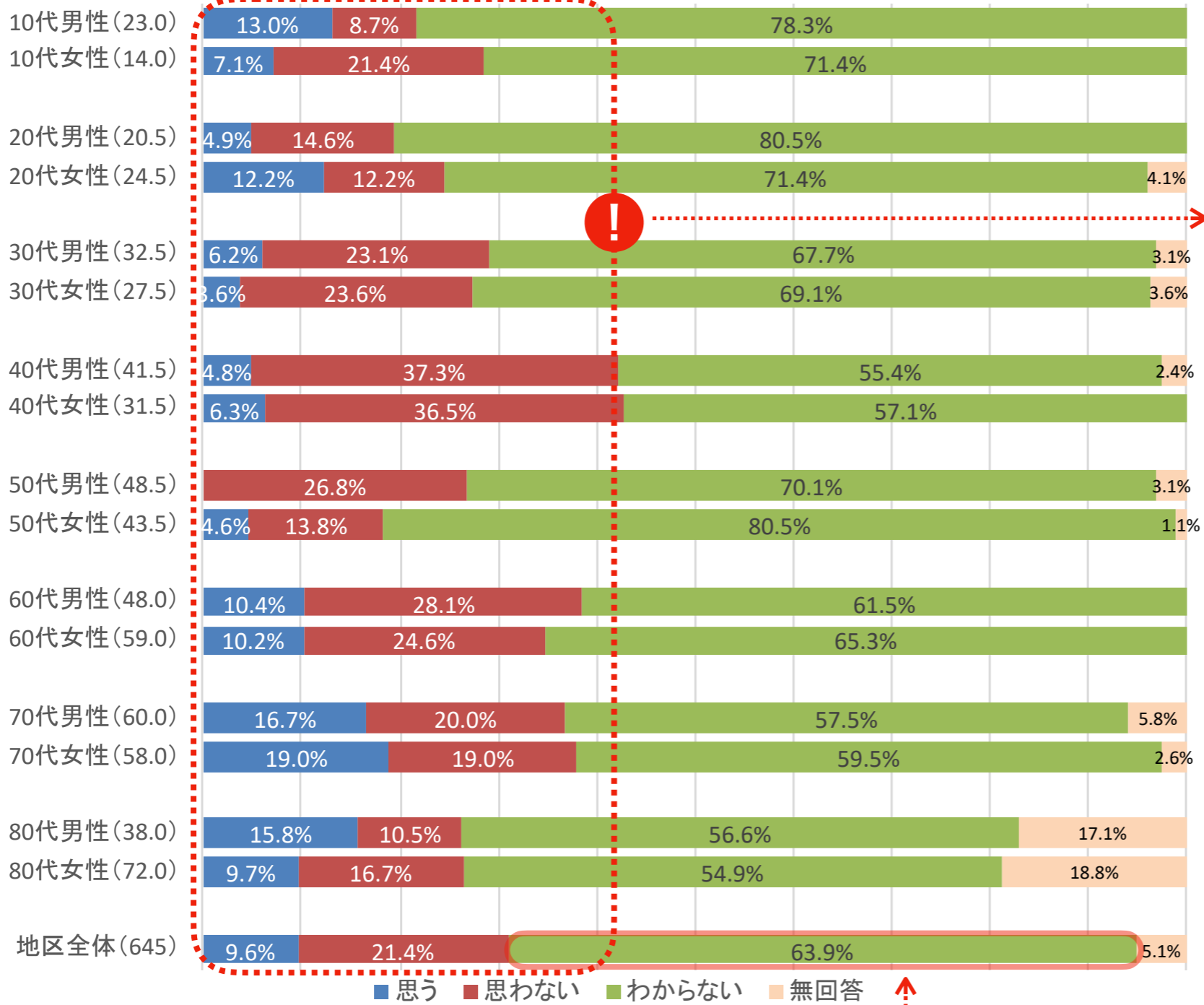
人は減っているのに、役割・仕事は変わっていないならば、負担感が増すのは当然のこと。現状のやり方のままで大丈夫？

40~50代は会議出席・役員経験有の割合が平均よりも高い

女性・若者の声が反映されているか（年代別×男女別） 関川村下関地区（2022）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



【注意】 大半の年代で
 反映されて **いる** < 反映されて **いない**
 ※30~60代でこの傾向は**顕著**



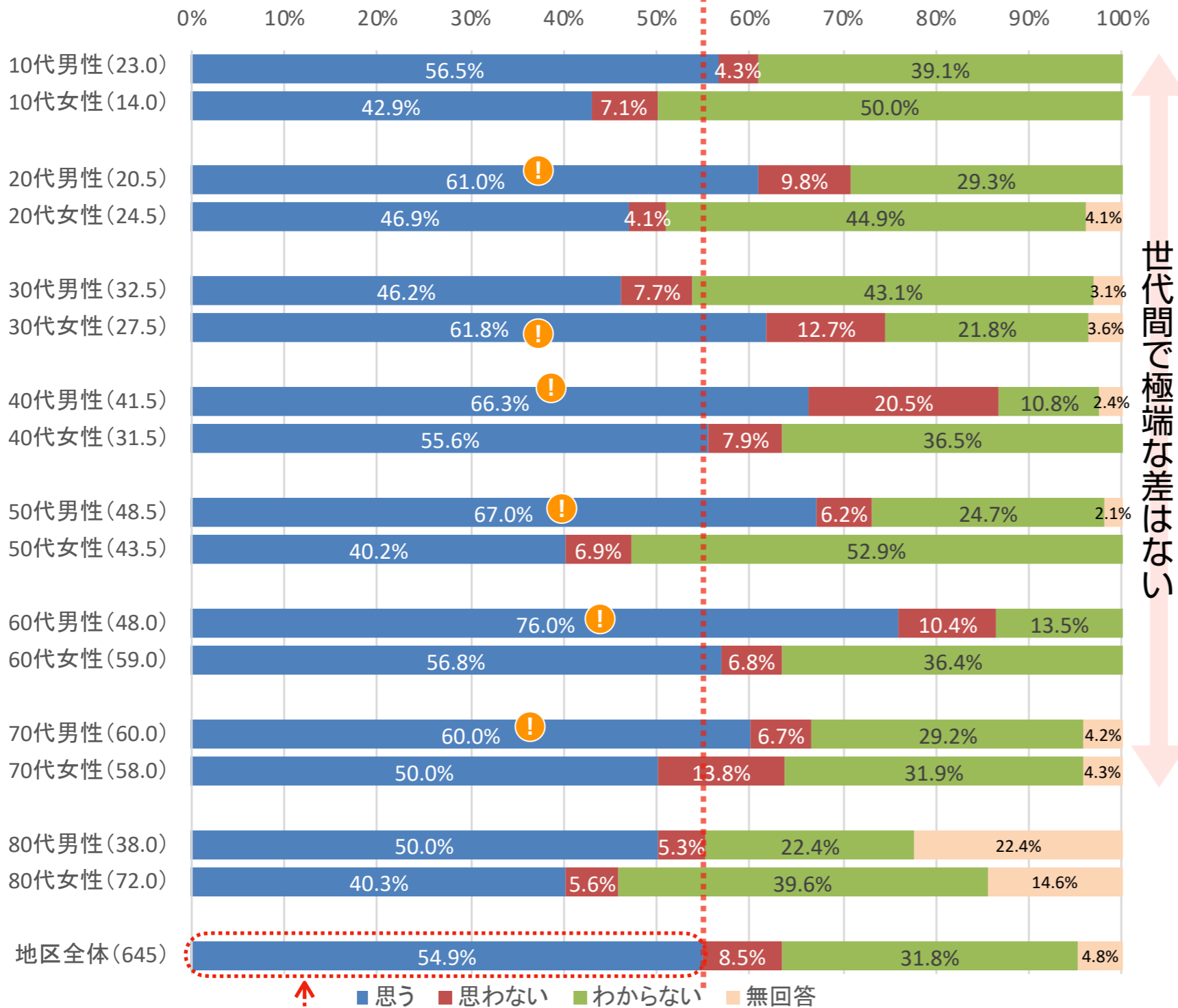
声を反映させる機会の
 充足・工夫が
 求められている！

地区全体では6割が「わからない」と回答

定住受入の必要性（年代別×男女別）

関川村下関地区（2022）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



男性は強く必要だと思っている



「必要」が6割以上の年代

20代男性 / 30代女性 / 40代男性 / 50代男性 / 60代男性 / 70代男性



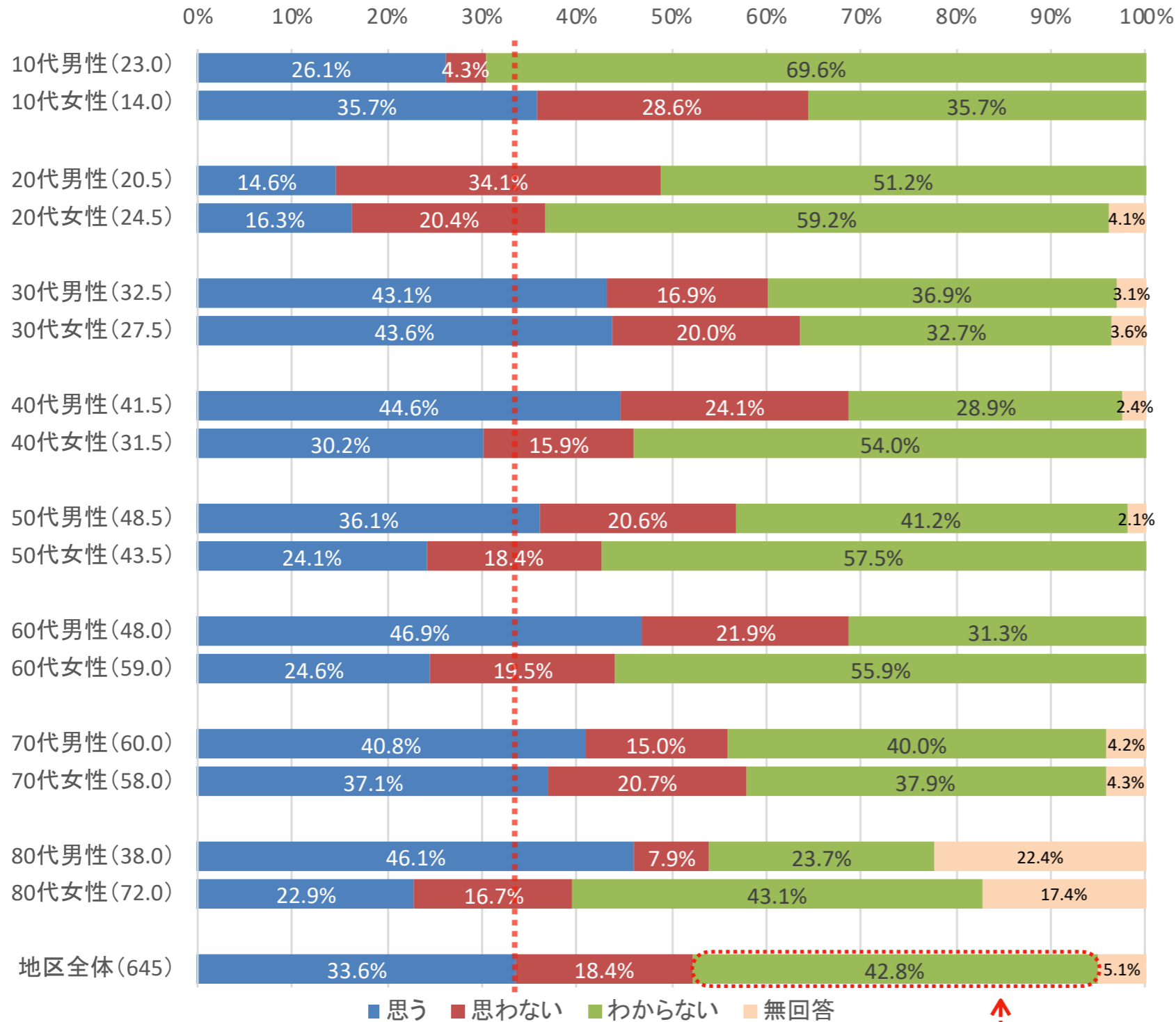
定住受入の必要性を強く求めている世代

地区全体では5割以上が「必要」と回答

他地域との交流の必要性 (年代別×男女別)

関川村下関地区 (2022)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))

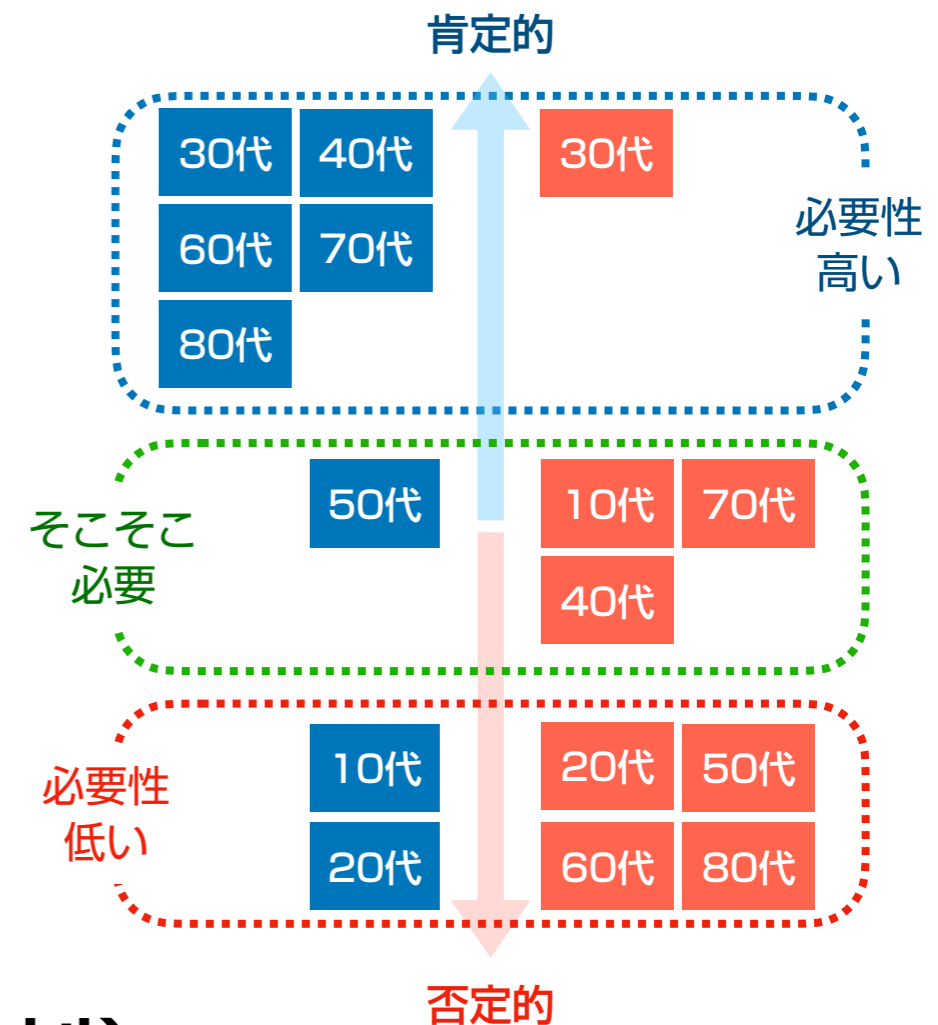


30代は肯定的

40代以上は

男性は肯定的だが

女性は消極的

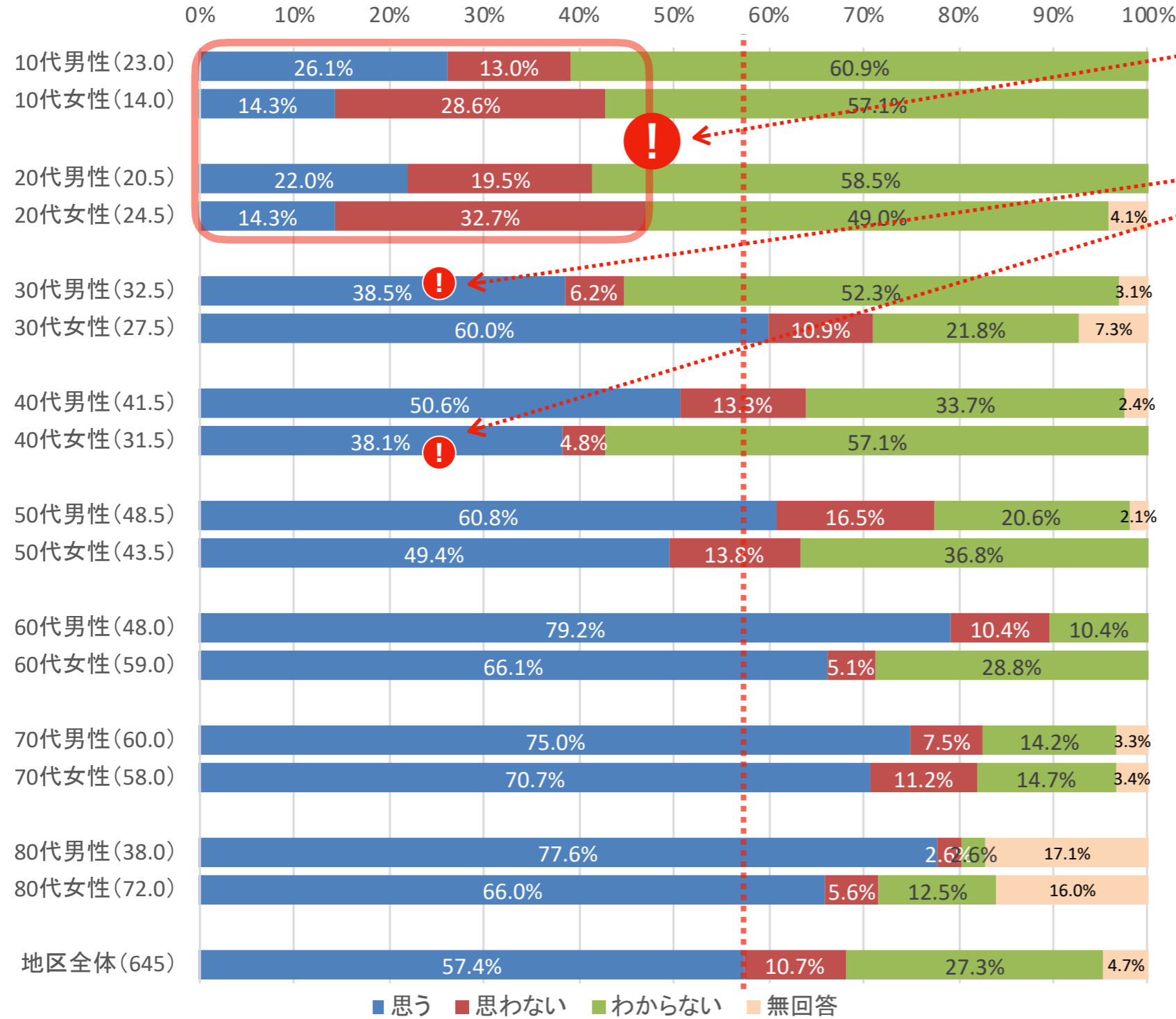


地区全体では「わからない」が最多 (4割)

年代別男女別の傾向

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別) 関川村下関地区 (2022)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



10・20代の定住意向は
かなり低い

【注意】30代男性・40代女性も低い

+

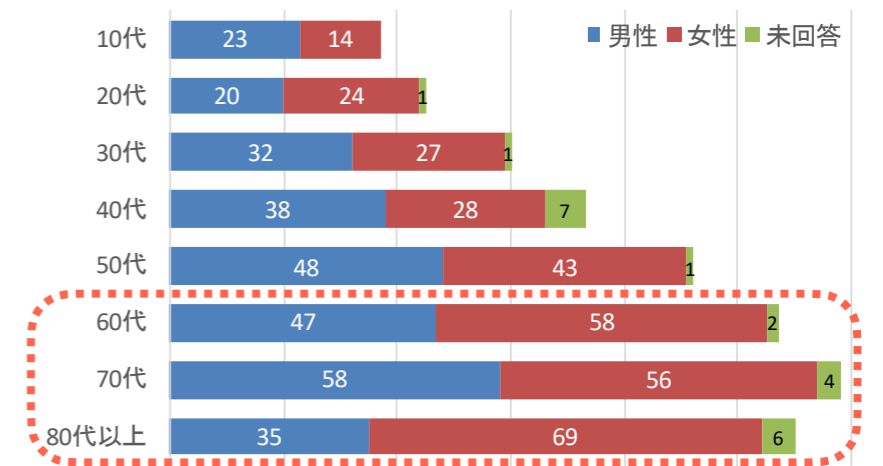
ただし、これらの世代は

5~6割はわからない

||

これからの取り組み次第！

回答者属性 (年代構成)

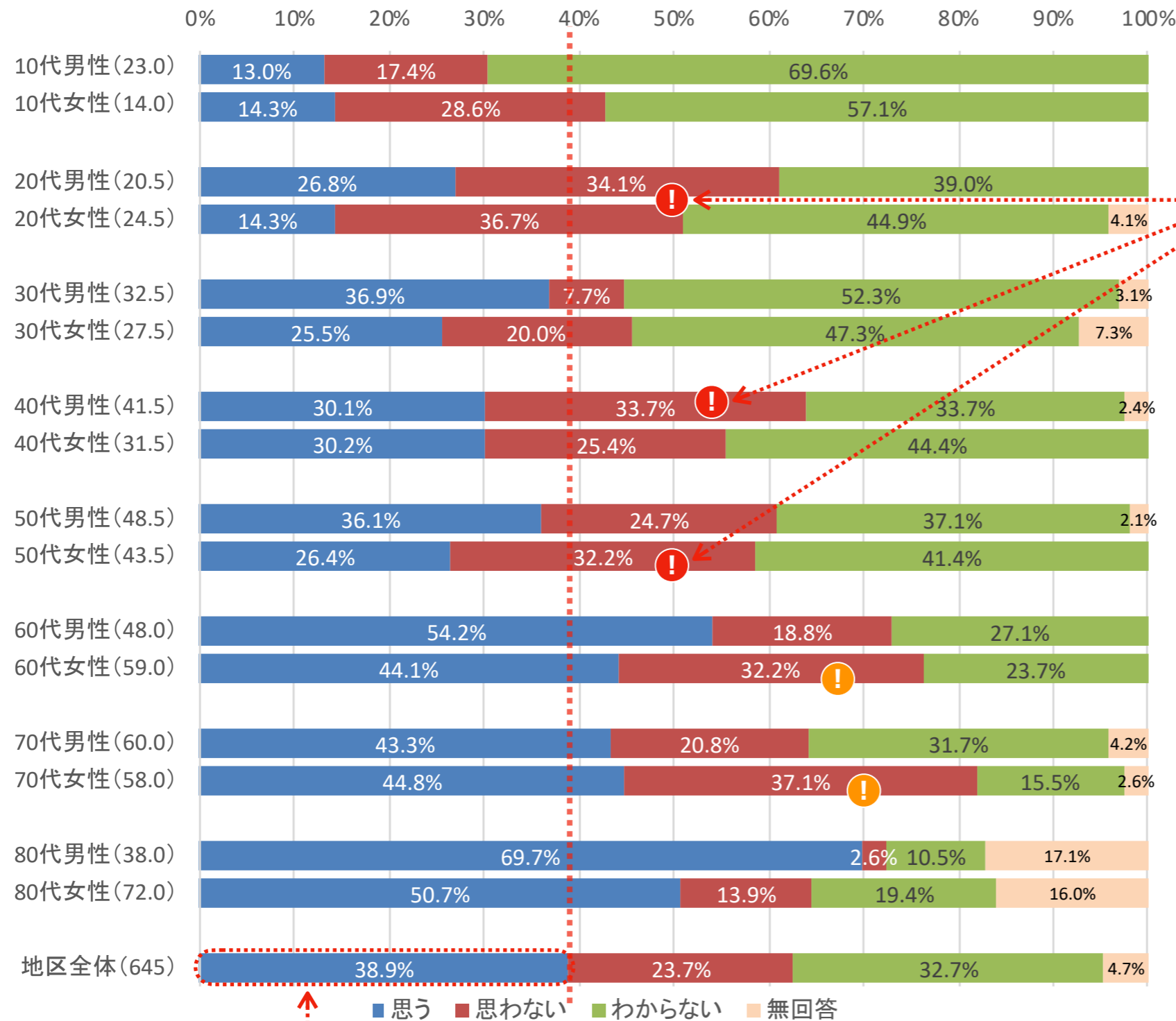


多数派の意見が色濃く
反映された結果

「住み続けたいと思う」が半数以上

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



【注意】
20代・40代男性・50代女性は
住み続けてほしいとは思わないの割合の
方が高い

思わないが3割以上
【男性】 20代、40代
【女性】 20代、50代、60代、70代



ただし
わからないも3~5割

||
これからの取り組み次第！

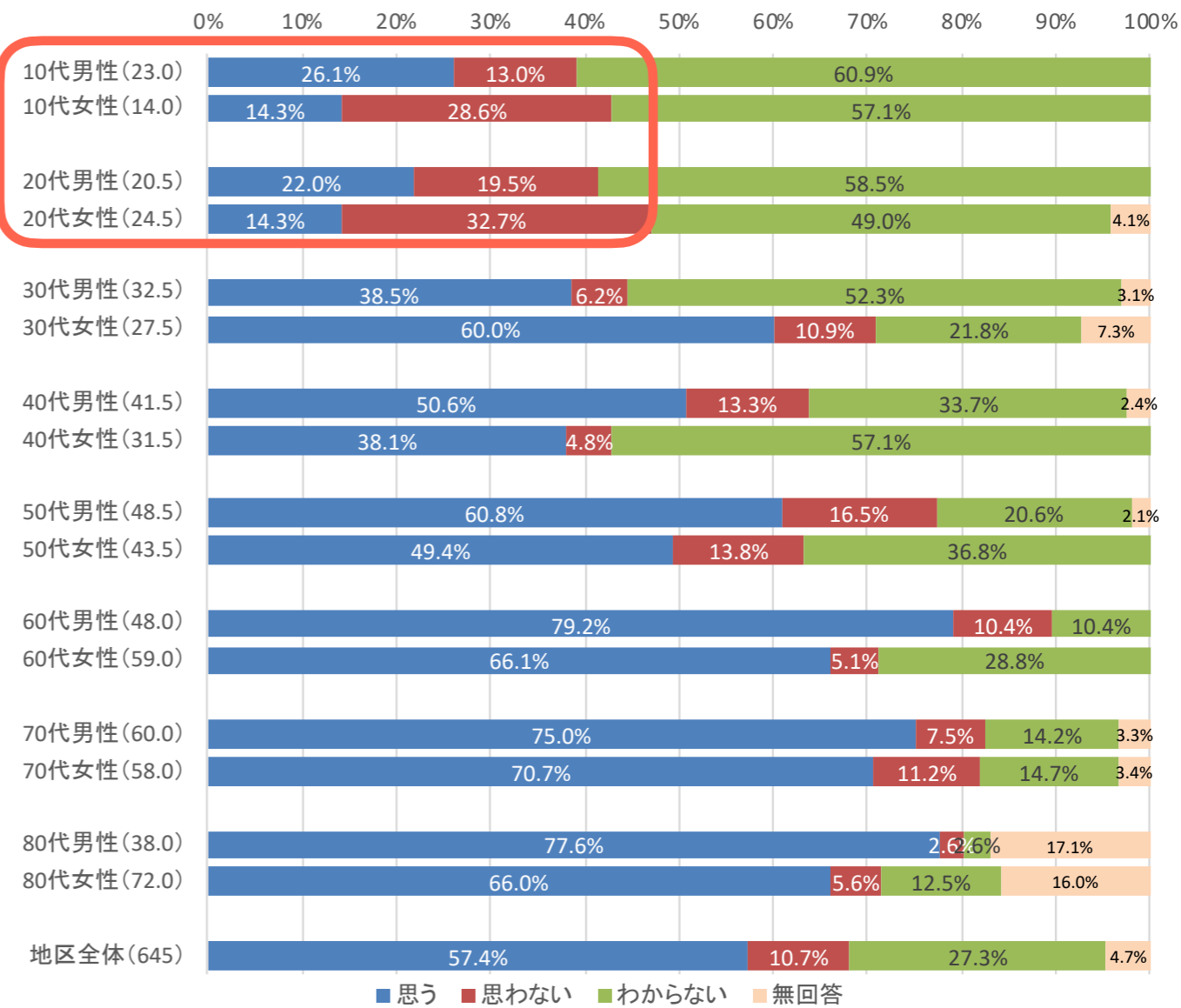
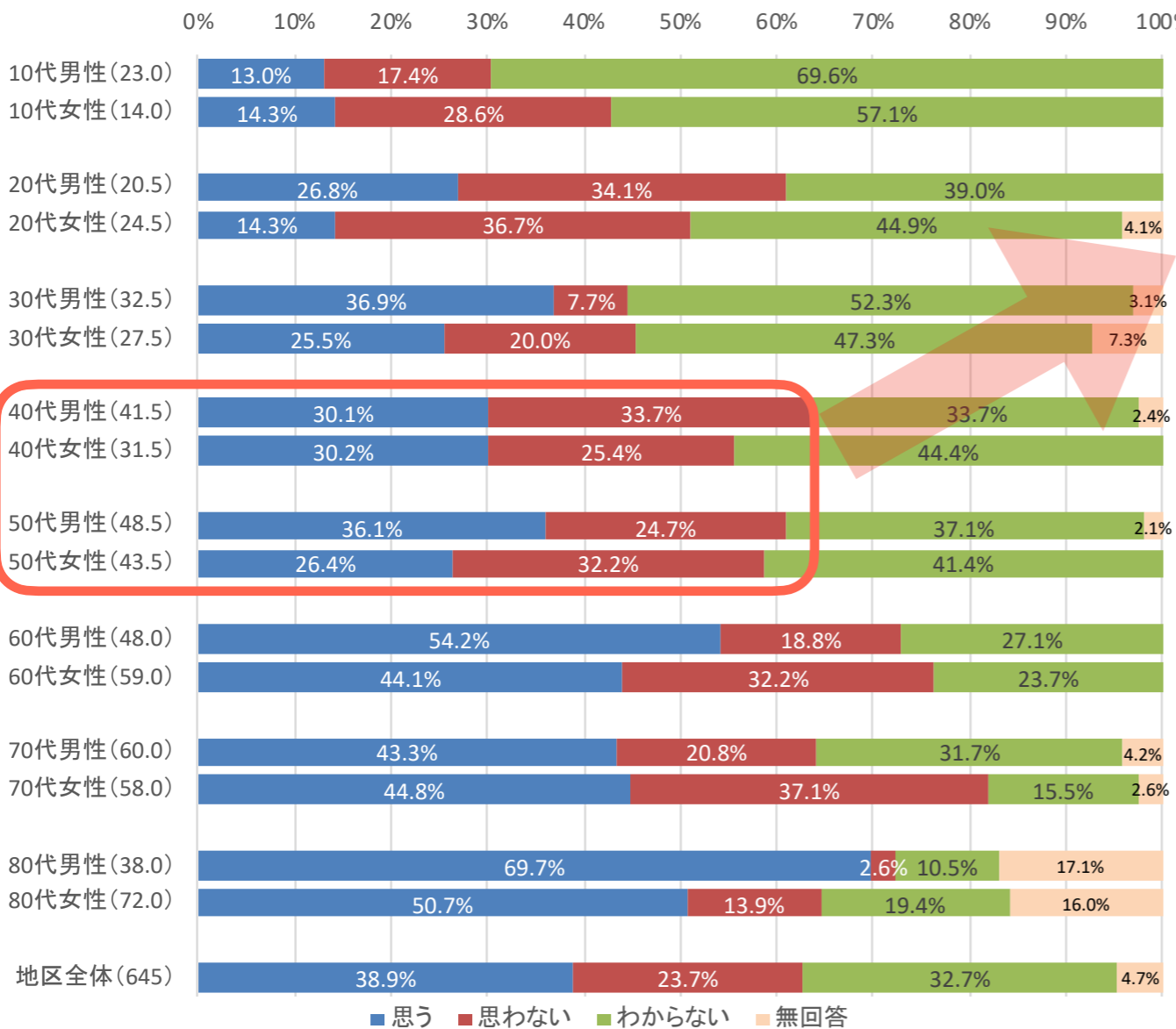
「子どもにも住み続けてほしい」は4割未満

親世代 (40~50代) は
「住み続けてほしいとは思わない」の割合が高い

子ども世代 (10~20代) は
「住み続けたい」の割合が低い

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ (年代別×男女別)

この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別)

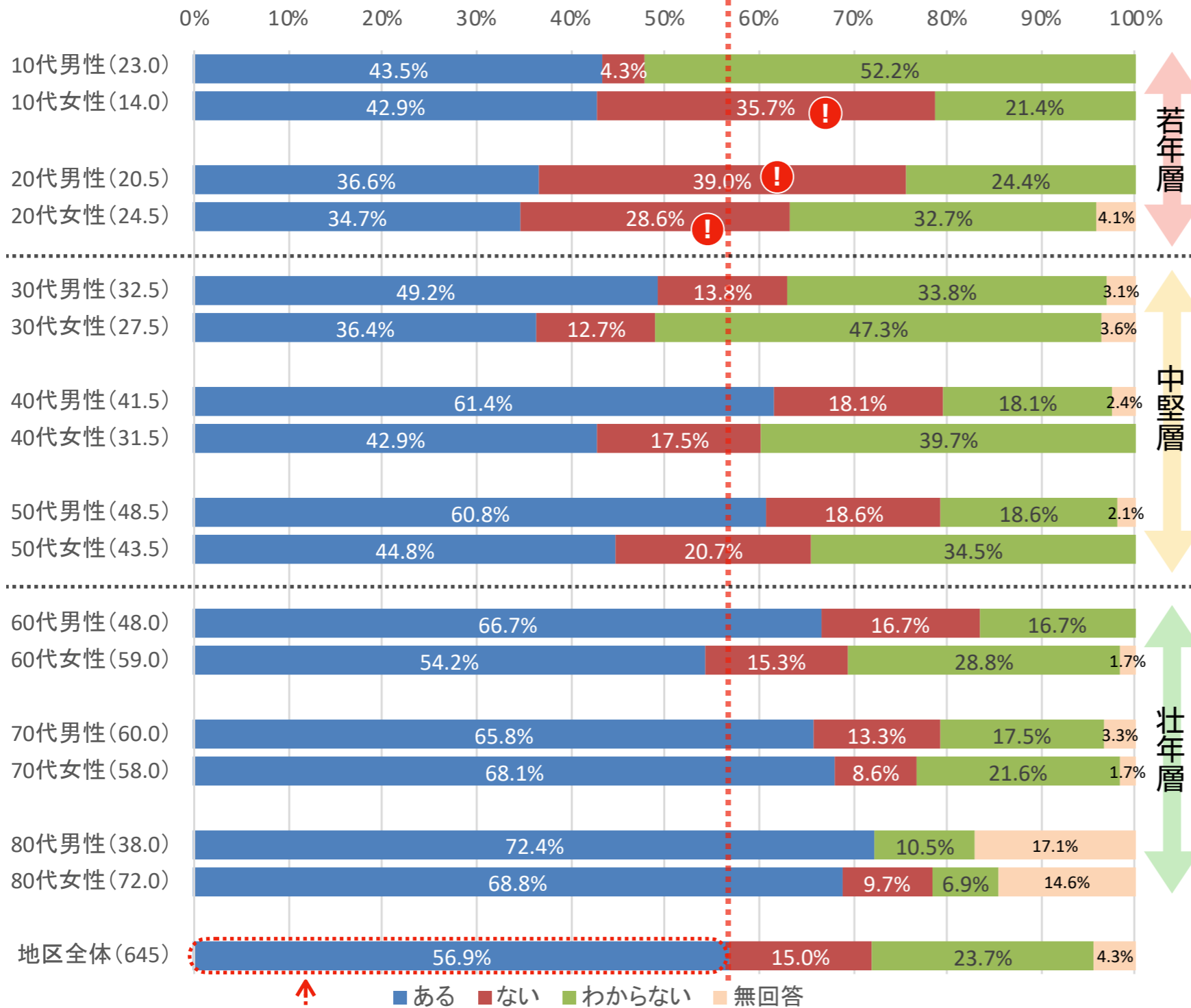


親世代の意向が、子世代に影響していませんか!?

地域への愛着の有無 (年代別×男女別)

関川村下関地区 (2022)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



愛着なしが3~4割

【注意】若年層は地域への愛着は低い

「愛着あり」の割合は
 男性は5~6割
 女性は4割前後 → 男高女低

「愛着あり」の割合は男女とも高い

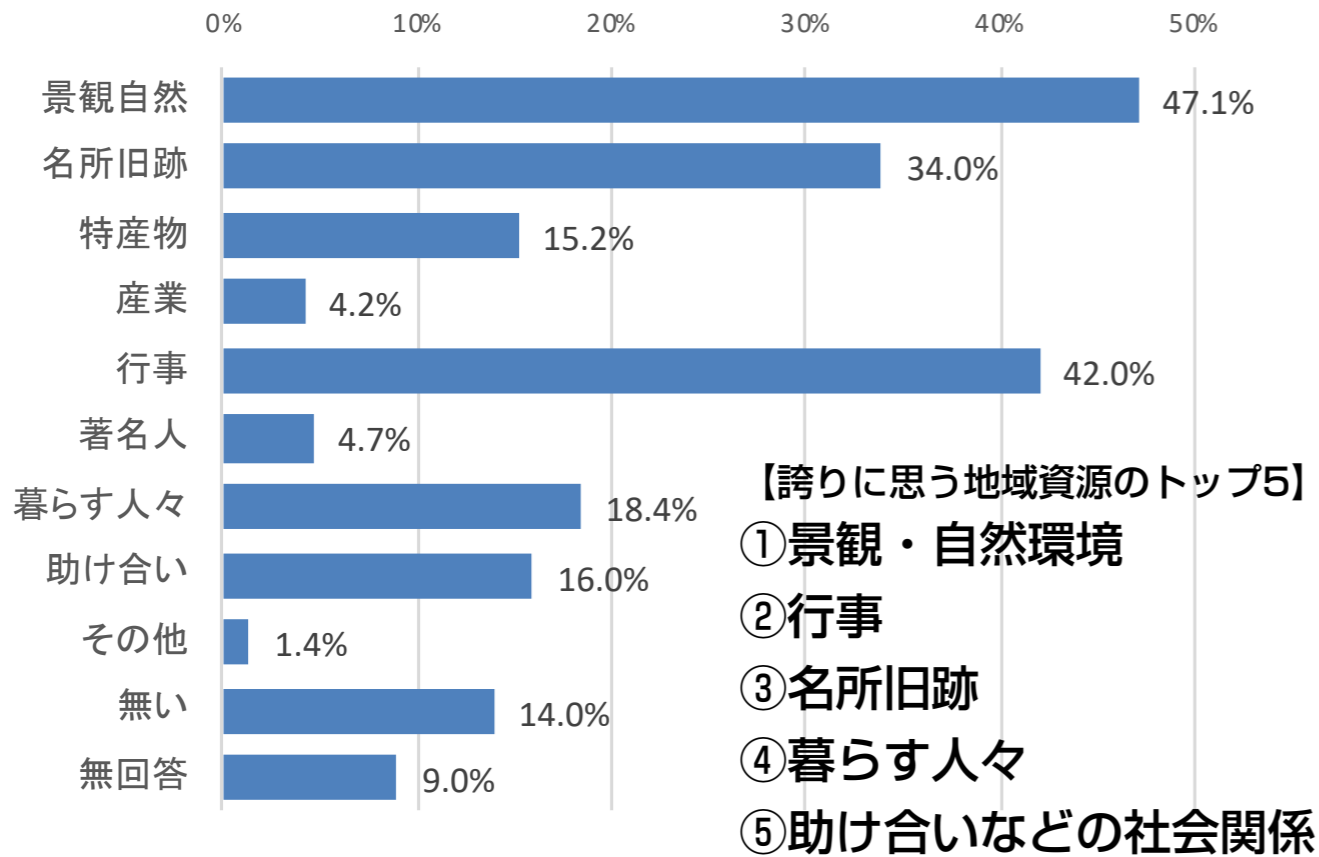
【要注意！】
 若年層が、定住意向は低く、地域への愛着度も低い状況では、人口流出に歯止めはかからない。

「愛着がある」は半数以上

誇りに思う地域資源は何か (10~40代)

関川村下関地区 (2022)

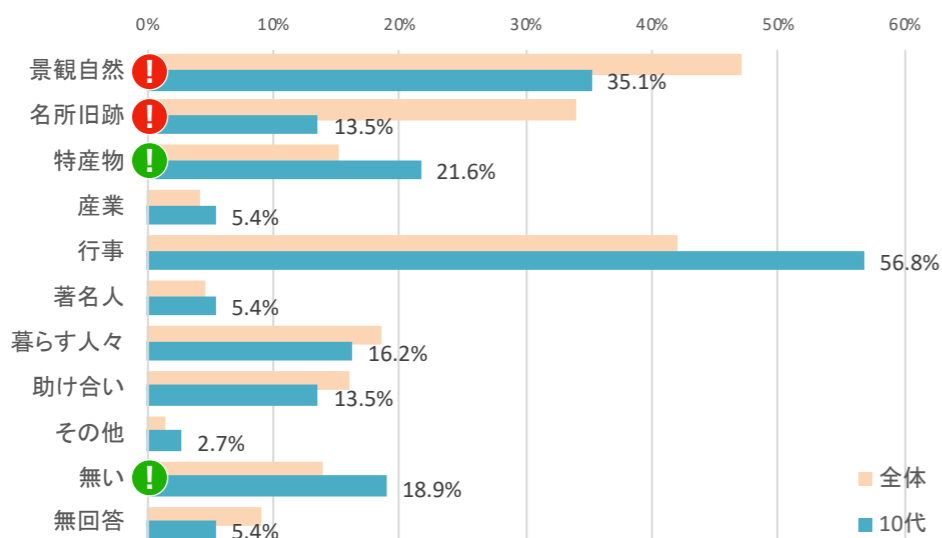
地区全体 (複数回答)



! 地区平均よりも5%以上高い項目

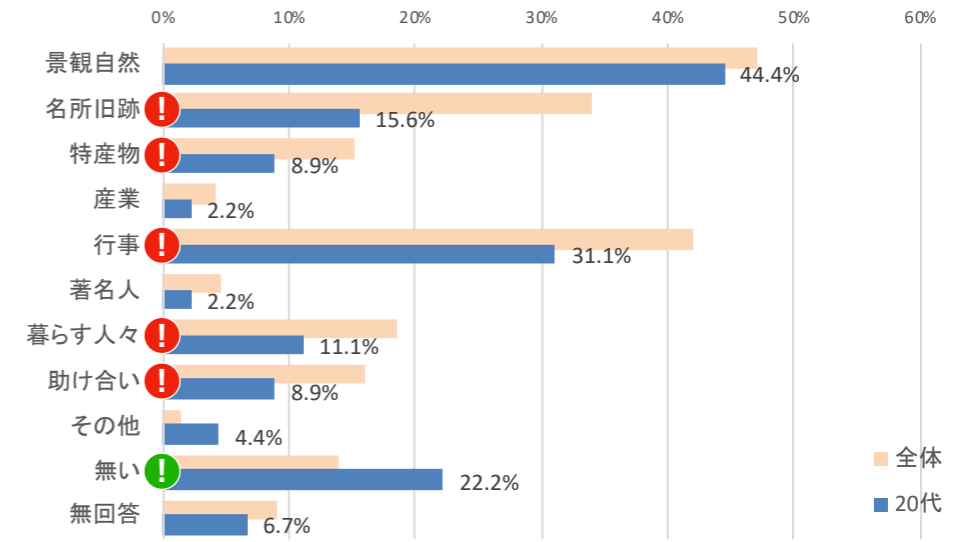
! 地区平均よりも5%以上低い項目

10代

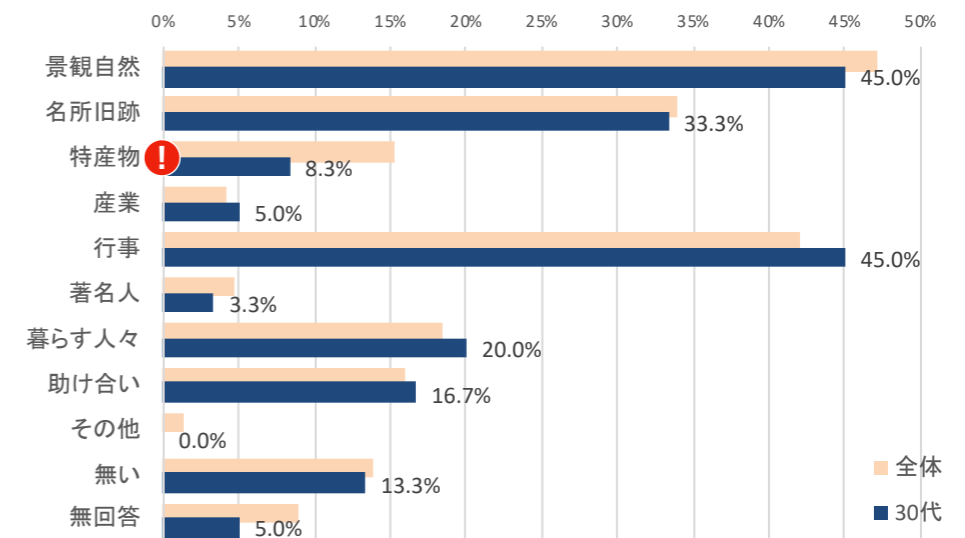


※壮年世代が誇りに思っている資源を、若年・中堅世代はそのように認識していない。
各資源を誇りに思っているかどうかは、世代によって大きく認識が違う。

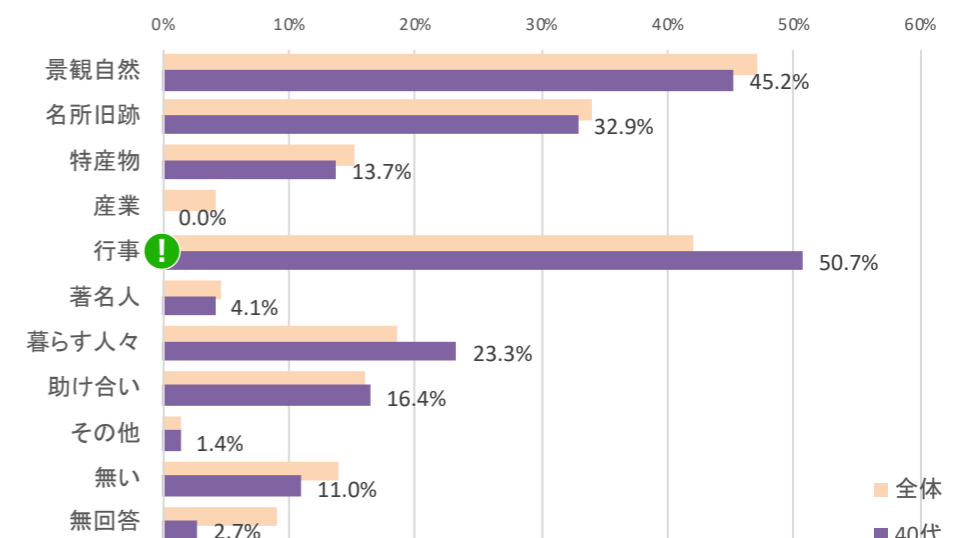
20代



30代



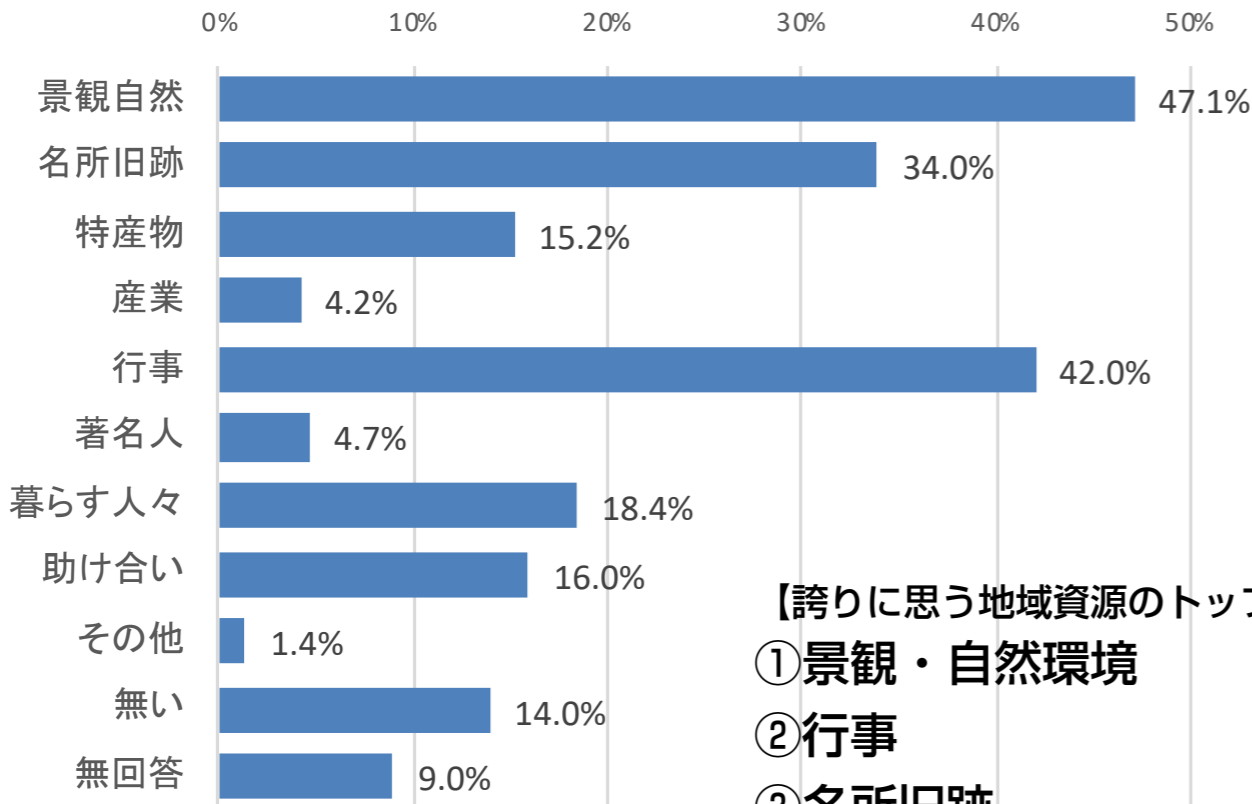
40代



誇りに思う地域資源は何か (50代~)

関川村下関地区 (2022)

地区全体 (複数回答)



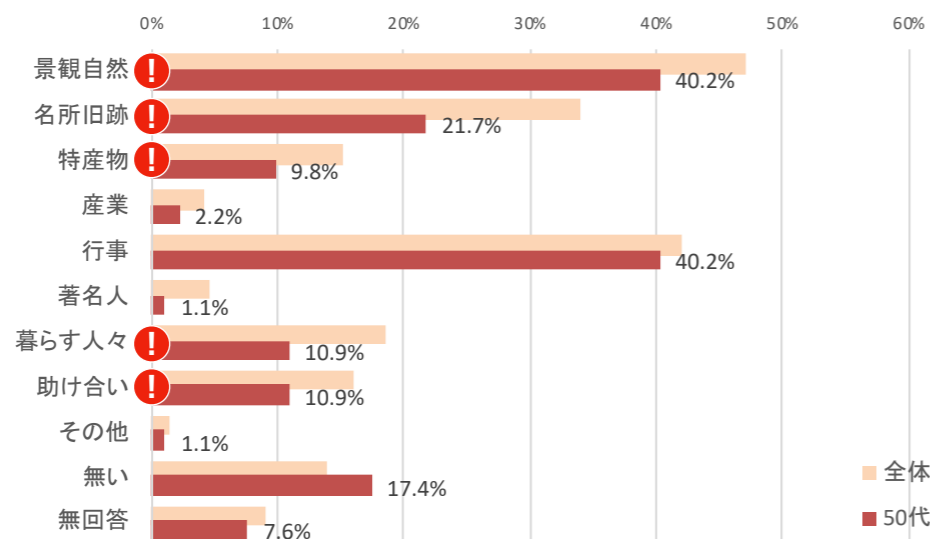
【誇りに思う地域資源のトップ5】

- ① 景観・自然環境
- ② 行事
- ③ 名所旧跡
- ④ 暮らす人々
- ⑤ 助け合いなどの社会関係

! 地区平均よりも5%以上高い項目

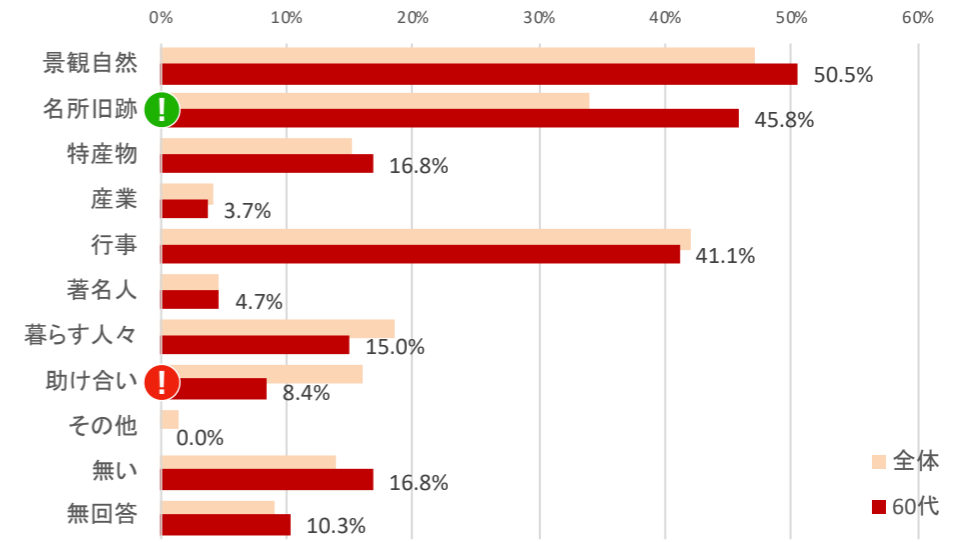
! 地区平均よりも5%以上低い項目

50代

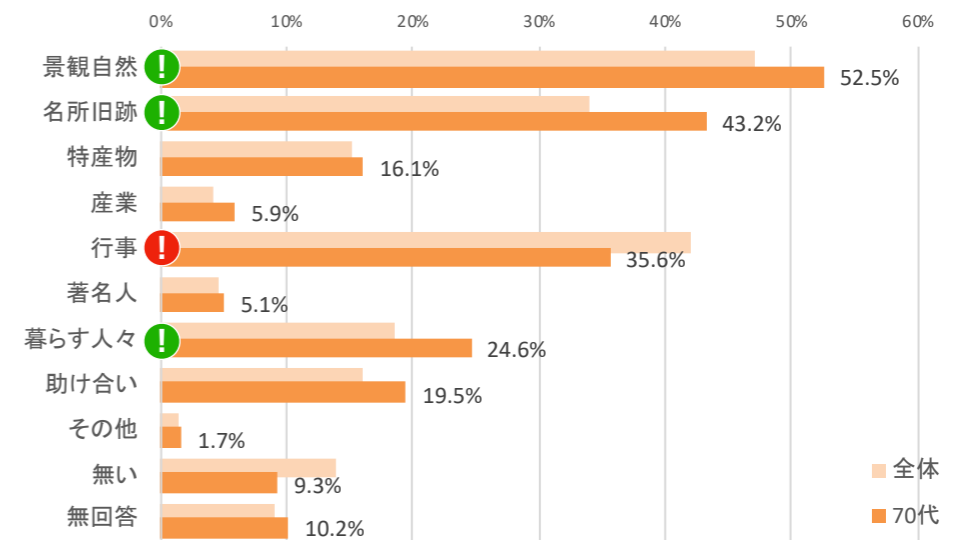


各資源を誇りに思っているかどうかは、世代によって大きく認識が違う。
※壮年世代が誇りに思っている資源を、若年・中堅世代はそのように認識していない。

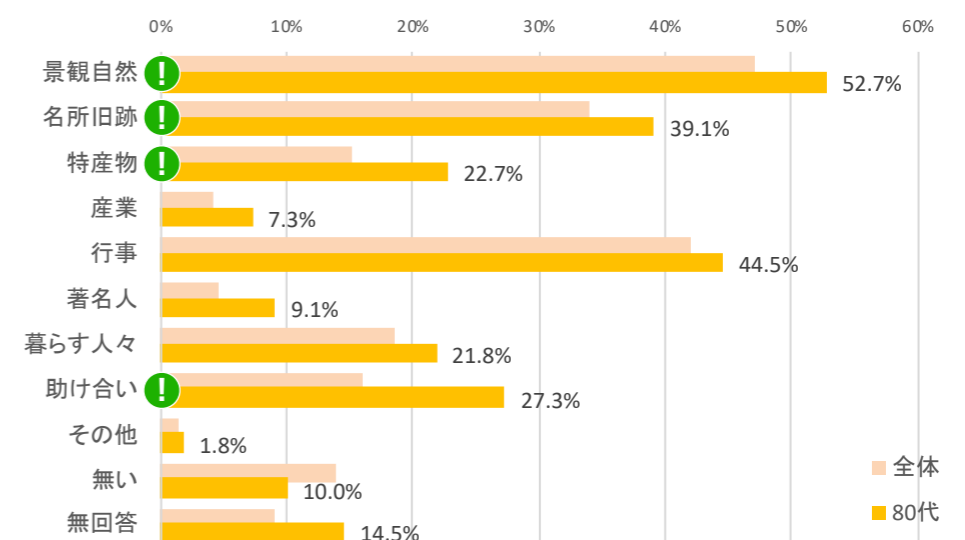
60代



70代



80代



暮らしの中の困りごと（複数回答）

関川村下関地区（2022）

10代

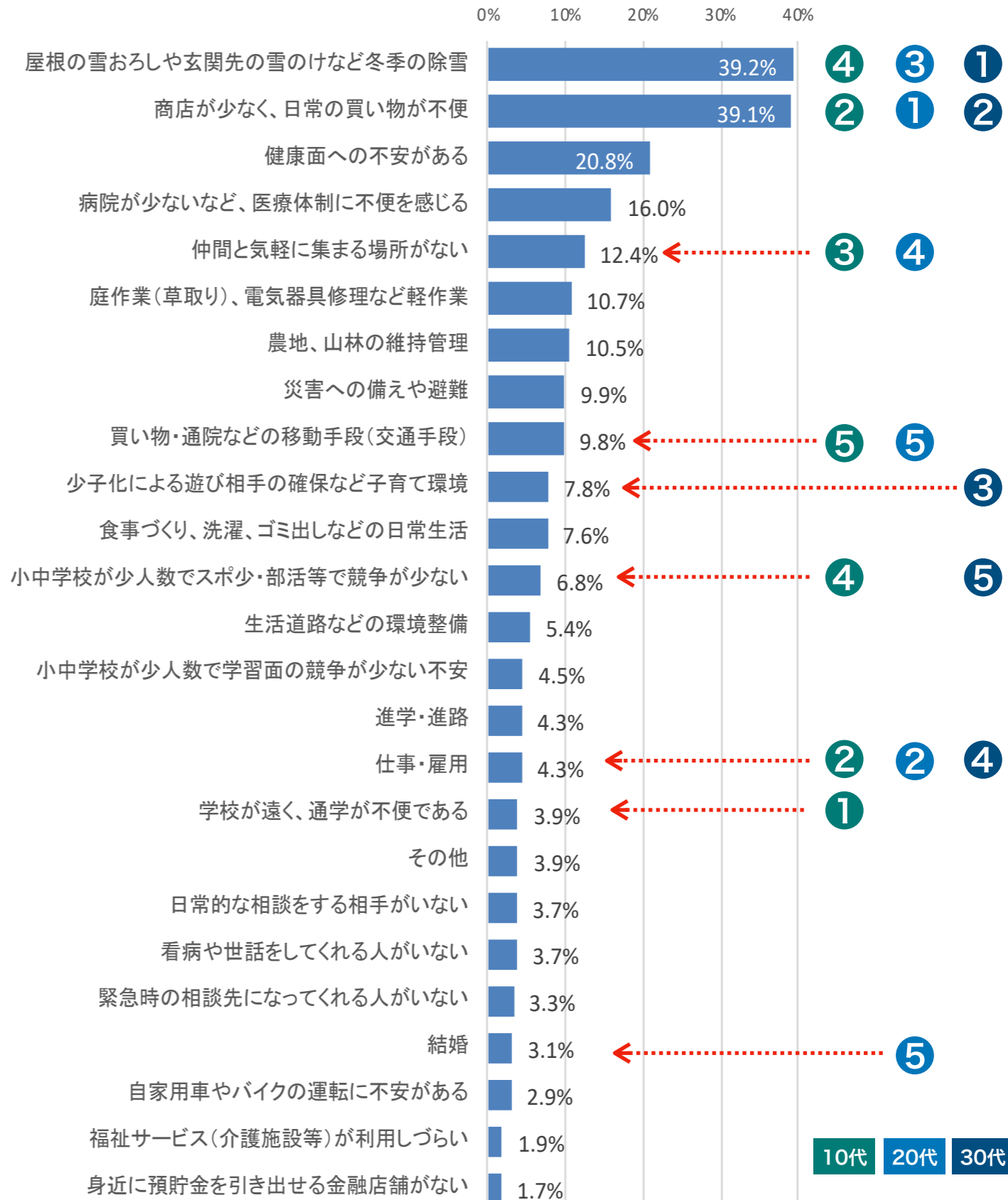
10代		
1	学校が遠く、通学が不便である	29.7%
2	商店が少なく、日常の買い物が不便	24.3%
	進学・進路	
4	仲間と気軽に集まる場所がない	21.6%
5	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	10.8%

20代

20代		
1	商店が少なく、日常の買い物が不便	46.7%
2	仕事・雇用	26.7%
3	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	22.2%
4	仲間と気軽に集まる場所がない	17.8%
5	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	13.3%
	結婚	

30代

30代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	36.7%
2	商店が少なく、日常の買い物が不便	31.7%
3	少子化による遊び相手の確保など子育て環境	28.3%
4	仕事・雇用	21.7%
5	小学校・中学校が少人数であり、スポ少や部活などクラブ活動で競争が少ないので不安なこと	20.0%



地区全体（複数回答）

暮らしの中の困りごと（複数回答）

関川村下関地区（2022）

40代

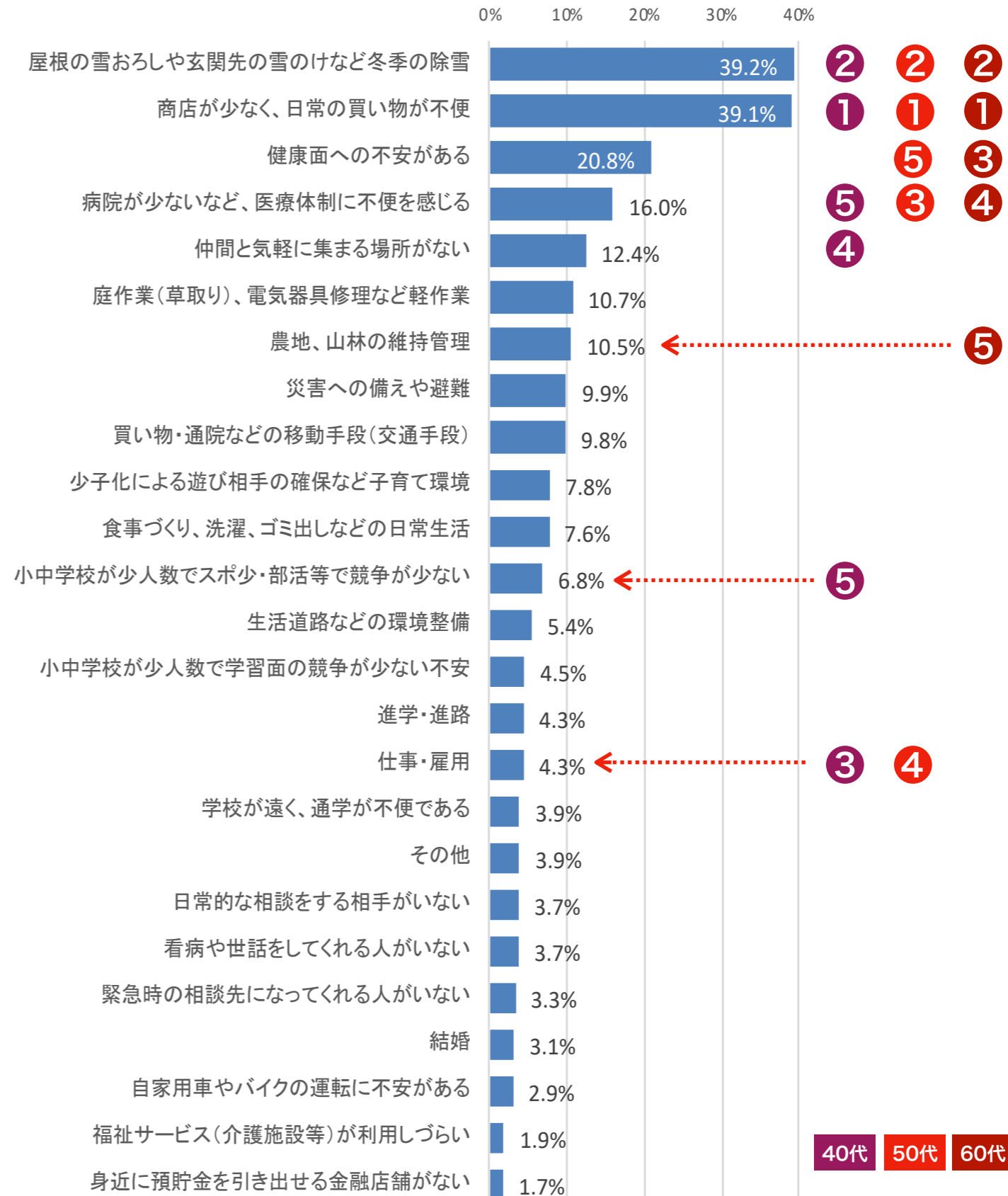
40代		
1	商店が少なく、日常の買い物が不便	41.1%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	34.2%
3	仕事・雇用	31.5%
4	仲間と気軽に集まる場所がない	19.2%
5	小中学校が少人数でスポ少・部活等で競争が少ない 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	16.4%

50代

50代		
1	商店が少なく、日常の買い物が不便	41.3%
2	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	38.0%
3	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	26.1%
4	仕事・雇用	23.9%
5	健康面への不安がある	13.0%

60代

60代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	42.1%
2	商店が少なく、日常の買い物が不便	35.5%
3	健康面への不安がある	19.6%
4	病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる	16.8%
5	農地、山林の維持管理	15.9%



暮らしの中の困りごと（複数回答）

関川村下関地区（2022）

70代

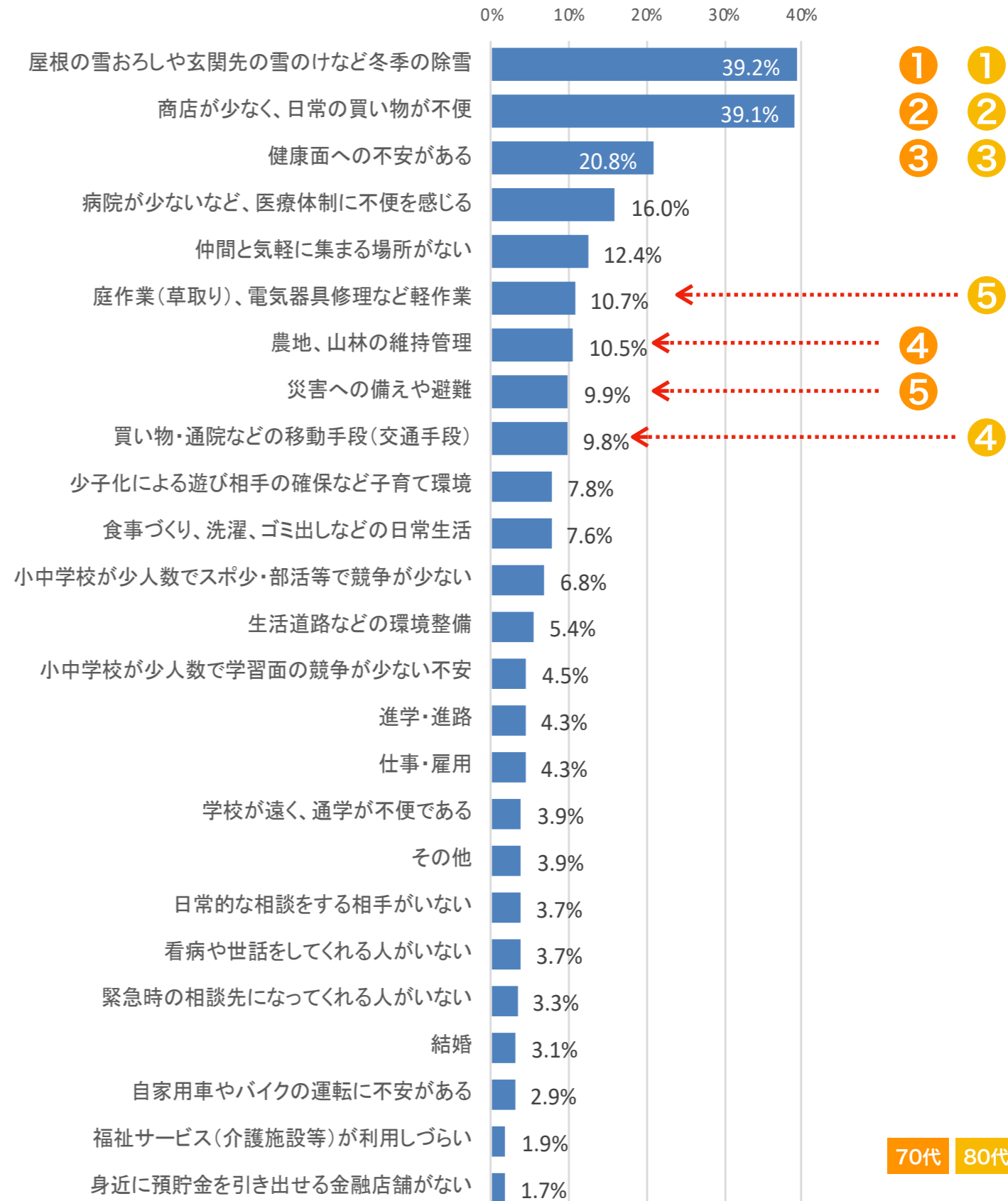
70代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	49.2%
2	商店が少なく、日常の買い物が不便	39.0%
3	健康面への不安がある	35.6%
4	農地、山林の維持管理	18.6%
5	災害への備えや避難	14.4%

80代

80代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪	49.1%
2	商店が少なく、日常の買い物が不便	45.5%
3	健康面への不安がある	40.0%
4	買い物・通院などの移動手段（交通手段）	21.8%
5	庭作業（草取り）、電気器具修理など軽作業	20.0%

年代によって不安・困りごとの
順番は大きく違う

（人数の少ない若年層は特に）



第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪 39.2%

全ての世代で上位にランクイン (30代、60~80代ではトップ)

→60代以下は担い手不足への懸念、70代以上は作業自体への不安?

第2位 商店が少なく、日常の買い物が不便 39.1%

すべての世代で上位にランクイン (20代、40代、50代はトップ/10代、30代、60~80代は第2位)

第3位 健康面への不安がある 20.8%

50代以上で上位にランクイン (50代は第5位、60~80代は第3位)

第4位 病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる 16.0%

40~60代で上位にランクイン

第5位 仲間と気軽に集まる場所がない 12.4%

10~20代、40代で上位にランクイン

全体での順位は
高くはないが、
高齢世代
特有の困りごと

第6位 庭作業 (草取り)、電気器具修理など軽作業 10.7%

【80代】 第5位 →日常生活でのちょっとした手助けを求めている現れ!?

第7位 農地、山林の維持管理 10.5%

【60代】 第5位 【70代】 第4位 →いま維持管理をしている世代は不安を感じている

第8位 災害への備えや避難 9.8%

【70代】 5位 →壮年世代は不安感が高い

第10位 少子化による遊び相手の確保など子育て環境 7.8%

【30代】 第3位 →子育て中の親世代は不安を感じている

第12位 小中学校が少人数でスポ少・部活等で競争が少ない 7.8%

【20代】 第5位 【30代】 第5位 →子育て中の親世代にとっては負担が大きい

第15位 仕事・雇用／進学・進路 4.3%

進学・進路 【20代】 第2位

仕事・雇用 【20代】 第3位 【30代】 第4位 【40代】 第3位

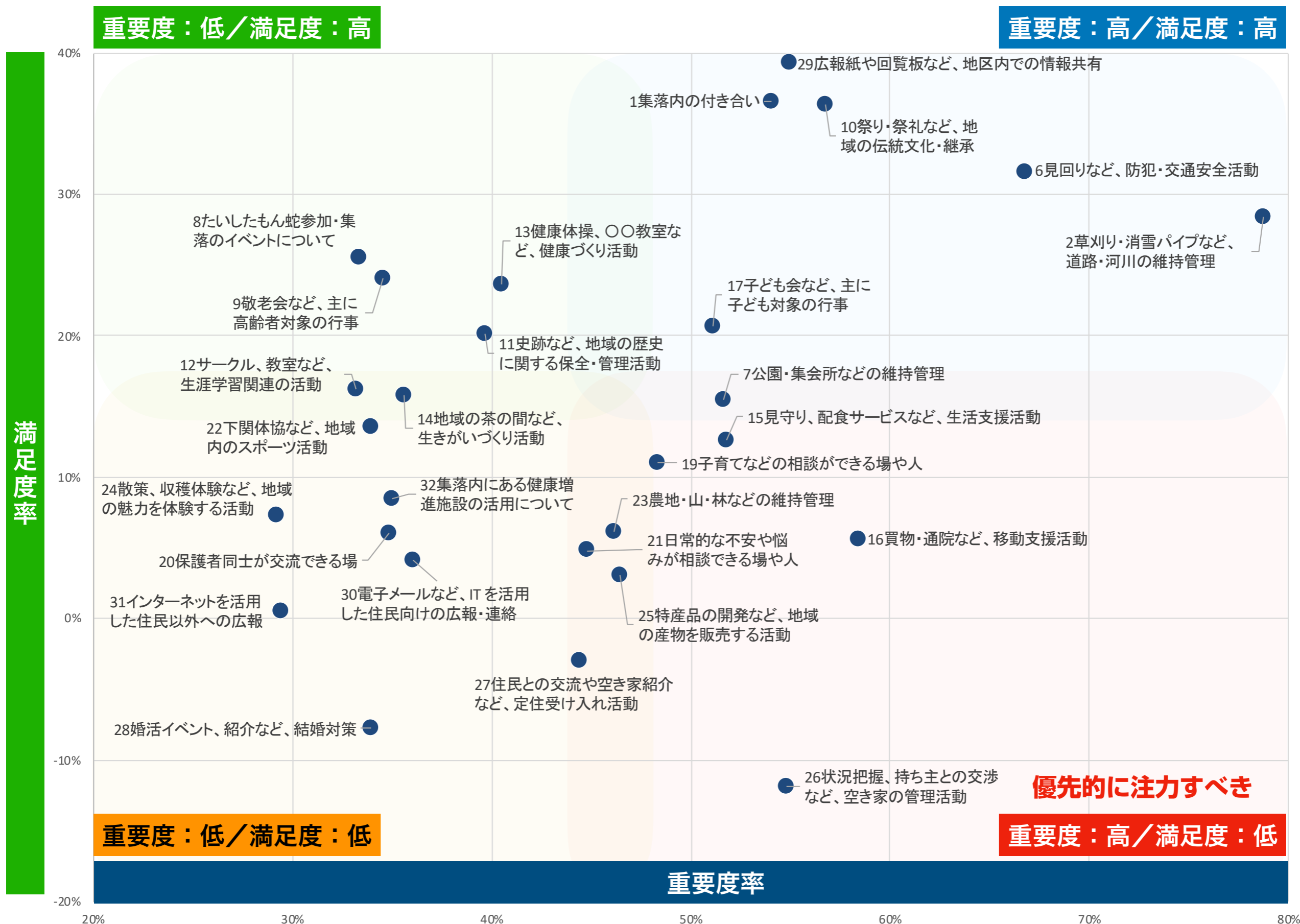
【50代】 第4位

全体での順位は
高くはないが、
若年・中堅
世代

特有の困りごと

取り組みの満足度と重要度

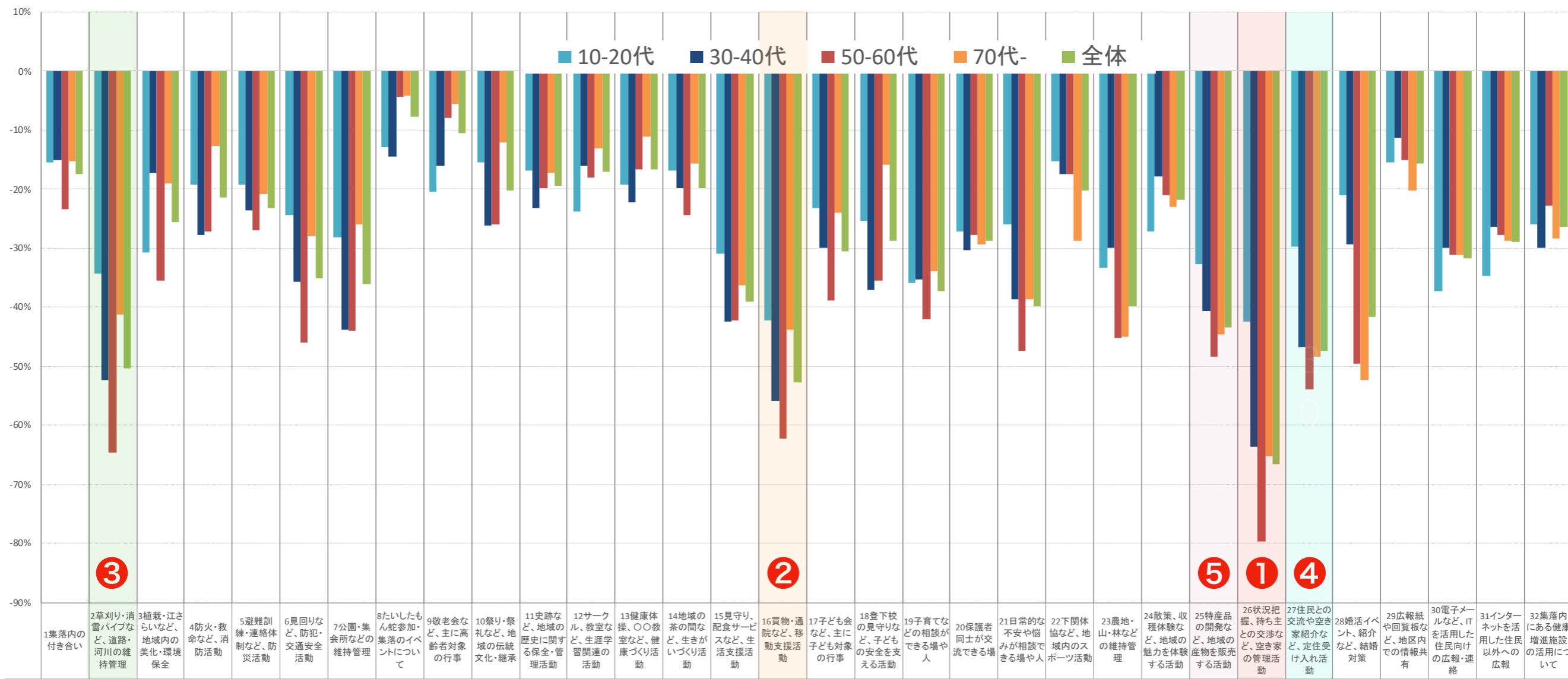
関川村下関地区 (2022)



取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

関川村下関地区（2022）

※グラフが下に伸びているほど、満足度と重要度のギャップがある（＝現状では満足しておらず、これからは重要だと思う）項目



① 状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動

② 買物・通院など、移動支援活動

③ 草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理

④ 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動

⑤ 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている上位5つ

取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

関川村下関地区（2022）

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング（上位）

	全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代-
1	状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -66.6%	状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -42.4%	状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -63.6%	状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -79.8%	状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動 -65.2%
2	買物・通院など、移動支援活動 -52.8%	買物・通院など、移動支援活動 -42.2%	買物・通院など、移動支援活動 -55.8%	草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理 -64.5%	婚活イベント、紹介など、結婚対策 -52.4%
3	草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理 -50.3%	電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -37.2%	草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理 -52.4%	買物・通院など、移動支援活動 -62.1%	住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -48.4%
4	住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -47.3%	子育てなどの相談ができる場や人 -36.0%	住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -46.8%	住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -54.0%	農地・山・林などの維持管理 -45.1%
5	特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -43.3%	インターネットを活用した住民以外への広報 -34.8%	公園・集会所などの維持管理 -43.8%	婚活イベント、紹介など、結婚対策 -49.6%	特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -44.7%
6	婚活イベント、紹介など、結婚対策 -41.6%	草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理 -34.3%	見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -42.4%	特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -48.4%	買物・通院など、移動支援活動 -43.8%
7	農地・山・林などの維持管理 -39.9%	農地・山・林などの維持管理 -33.4%	特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -40.6%	日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -47.3%	草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理 -41.2%
8	日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -39.8%	特産品の開発など、地域の産物を販売する活動 -32.7%	日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -38.7%	見回りなど、防犯・交通安全活動 -46.1%	日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -38.7%
9	見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -39.1%	見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -30.8%	登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -37.0%	農地・山・林などの維持管理 -45.1%	見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -36.3%
10	子育てなどの相談ができる場や人 -37.3%	植栽・江さらいなど、地域内の美化・環境保全 -30.8%	見回りなど、防犯・交通安全活動 -35.7%	公園・集会所などの維持管理 -43.9%	子育てなどの相談ができる場や人 -33.9%
11	公園・集会所などの維持管理 -36.1%	住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動 -29.8%	子育てなどの相談ができる場や人 -35.2%	見守り、配食サービスなど、生活支援活動 -42.3%	電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -31.1%
12	見回りなど、防犯・交通安全活動 -35.2%	公園・集会所などの維持管理 -28.2%	保護者同士が交流できる場 -30.4%	子育てなどの相談ができる場や人 -41.9%	保護者同士が交流できる場 -29.3%
13	電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -31.8%	散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -27.1%	子ども会など、主に子ども対象の行事 -30.0%	子ども会など、主に子ども対象の行事 -38.9%	下関体協など、地域内のスポーツ活動 -28.7%
14	子ども会など、主に子ども対象の行事 -30.4%	保護者同士が交流できる場 -27.1%	電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -30.0%	植栽・江さらいなど、地域内の美化・環境保全 -35.6%	インターネットを活用した住民以外への広報 -28.7%
15	インターネットを活用した住民以外への広報 -28.9%	日常的な不安や悩みが相談できる場や人 -25.9%	農地・山・林などの維持管理 -30.0%	登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -35.4%	集落内にある健康増進施設の活用について -28.4%
16	登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -28.8%	集落内にある健康増進施設の活用について -25.9%	集落内にある健康増進施設の活用について -29.9%	電子メールなど、ITを活用した住民向けの広報・連絡 -31.2%	見回りなど、防犯・交通安全活動 -28.0%

取り組みの満足度と重要度の評価（年代別）

関川村下関地区（2022）

これからの地域づくりで大切だと思っているテーマ・年代別ランキング（下位）

	全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代-
17	保護者同士が交流できる場 -28.8%	登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -25.4%	婚活イベント、紹介など、結婚対策 -29.4%	インターネットを活用した住民以外への広報 -27.9%	公園・集会所などの維持管理 -25.9%
18	集落内にある健康増進施設の活用について -26.4%	見回りなど、防犯・交通安全活動 -24.4%	防火・救命など、消防活動 -27.7%	保護者同士が交流できる場 -27.8%	子ども会など、主に子ども対象の行事 -24.1%
19	植栽・江さらいなど、地域内の美化・環境保全 -25.5%	サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -23.8%	インターネットを活用した住民以外への広報 -26.5%	防火・救命など、消防活動 -27.2%	散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -23.0%
20	避難訓練・連絡体制など、防災活動 -23.1%	子ども会など、主に子ども対象の行事 -23.1%	祭り・祭礼など、地域の伝統文化・継承 -26.2%	避難訓練・連絡体制など、防災活動 -27.0%	避難訓練・連絡体制など、防災活動 -20.8%
21	散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -21.8%	婚活イベント、紹介など、結婚対策 -21.0%	避難訓練・連絡体制など、防災活動 -23.7%	祭り・祭礼など、地域の伝統文化・継承 -26.0%	広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -20.3%
22	防火・救命など、消防活動 -21.5%	敬老会など、主に高齢者対象の行事 -20.5%	史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -23.3%	地域の茶の間など、生きがいつくり活動 -24.4%	植栽・江さらいなど、地域内の美化・環境保全 -19.0%
23	祭り・祭礼など、地域の伝統文化・継承 -20.3%	健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -19.3%	健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -22.2%	集落内の付き合い -23.4%	史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -17.3%
24	下関体協など、地域内のスポーツ活動 -20.3%	防火・救命など、消防活動 -19.2%	地域の茶の間など、生きがいつくり活動 -19.8%	集落内にある健康増進施設の活用について -22.7%	登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 -15.8%
25	地域の茶の間など、生きがいつくり活動 -19.8%	避難訓練・連絡体制など、防災活動 -19.2%	散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -17.8%	散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 -21.1%	地域の茶の間など、生きがいつくり活動 -15.7%
26	史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -19.5%	史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -16.9%	下関体協など、地域内のスポーツ活動 -17.5%	史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 -19.8%	集落内の付き合い -15.4%
27	集落内の付き合い -17.5%	地域の茶の間など、生きがいつくり活動 -16.8%	植栽・江さらいなど、地域内の美化・環境保全 -17.3%	サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -18.0%	サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -13.1%
28	サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -17.0%	広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -15.4%	サークル、教室など、生涯学習関連の活動 -16.1%	下関体協など、地域内のスポーツ活動 -17.5%	防火・救命など、消防活動 -12.6%
29	健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -16.8%	集落内の付き合い -15.4%	敬老会など、主に高齢者対象の行事 -16.1%	健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -16.7%	祭り・祭礼など、地域の伝統文化・継承 -12.1%
30	広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -15.6%	祭り・祭礼など、地域の伝統文化・継承 -15.4%	集落内の付き合い -15.2%	広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -15.2%	健康体操、〇〇教室など、健康づくり活動 -11.1%
31	敬老会など、主に高齢者対象の行事 -10.5%	下関体協など、地域内のスポーツ活動 -15.3%	たいしたもん蛇参加・集落のイベントについて -14.5%	敬老会など、主に高齢者対象の行事 -8.0%	敬老会など、主に高齢者対象の行事 -5.6%
32	たいしたもん蛇参加・集落のイベントについて -7.7%	たいしたもん蛇参加・集落のイベントについて -12.8%	広報紙や回覧板など、地区内での情報共有 -11.4%	たいしたもん蛇参加・集落のイベントについて -4.4%	たいしたもん蛇参加・集落のイベントについて -4.3%

行事・イベント < 地域課題の解決 という意識の現れ?!

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動

全世代でこの必要性を強く感じている。

②買物・通院など、移動支援活動

全年代でこの必要性を強く感じている（特に10～40代）

→送迎される側よりも、送迎している側が切実に求めているのではないか!?

③草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理

特に50～60代がこの必要性を強く感じている。

④住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動

大半の年代でこの必要性を強く感じている。

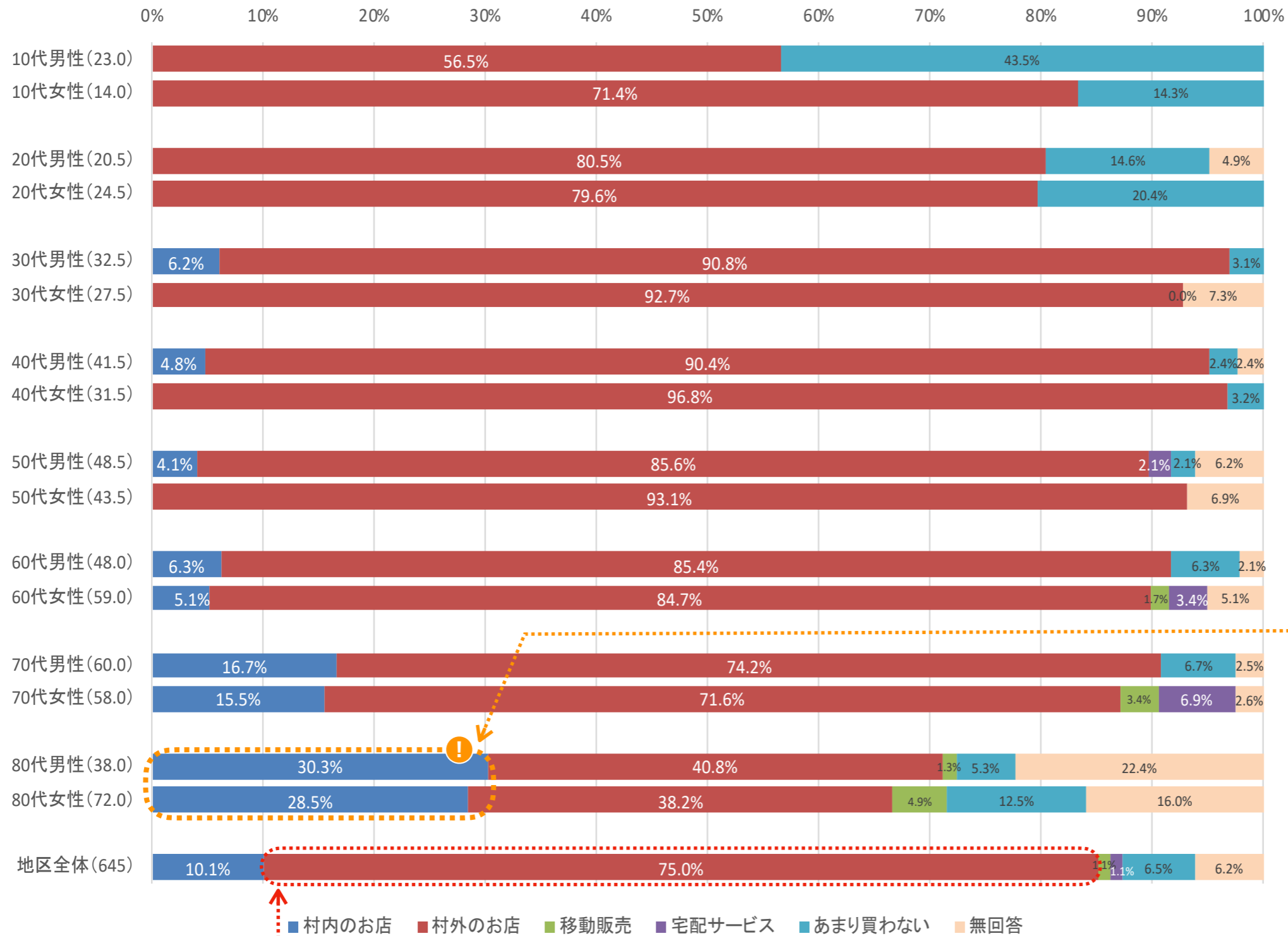
⑤特産品の開発など、地域の産物を販売する活動

50代以上がこの必要性を強く感じている。

生鮮食品の購入場所

関川村下関地区 (2022)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



80代の約3割
が村内のお店を
利用している

大半が村外のお店で購入している

アンケート結果から見えるポイント①

関川村下関地区 (2022)

☑ 農業従事者の73.2%が60代以上。

将来的な農地の維持管理は大丈夫か？

☑ 80代（女性は70代）になると自分で車を運転する人の割合が減少。

- ▶ この年代は「家族等の送迎」「バス」「タクシー」「自転車」の割合が増加。
- ▶ 将来的に送迎する側の人数が減少すると移動困難者が増加する可能性は高い。

地域の人口構成を勘案すると、移動支援はすぐに着手すべき課題

☑ 買物・通院などの移動支援は、今後の重要なテーマだという認識されている。

- ▶ 40代以下がこの必要性を強く感じている。（現在、高齢者を送迎している側が切実に求めている）
- ▶ 大半が車の運転ができるため、「今は困っていない」状況。ただし、車の運転ができなくなると、日々の暮らしに困る人が急増することは確実。

☑ 全体の2/3がインターネットを利用

- ▶ 50代以下は大半がスマホでインターネットを利用。

50代以下はスマホ経由での情報伝達の方が効果的?!

☑ 地域活動に参加していなくとも、かなりの人が「関心はある」

- ▶ 30～60代は地区平均よりも参加割合は高い。
- ▶ 20代の約半数は「関心がない」から参加していない。
(10代も3割)
- ▶ すべての年代で「関心あり+不参加」が3～6割いる。その理由の第1位は「余裕が無い」。50代以下の8割がこれを理由にあげている。

多様な地域活動への関わり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

☑ 20～50代で土曜日が毎週休日であるのは2～4割。日曜日が毎週休日なのは5～6割という状況。

- ▶ この世代は、必ずしも土日が休日ではない。

この世代の参加を求めるのであれば、開催日設定の配慮が必要。

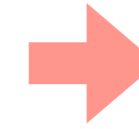
☑ 近所づきあいについては、40～50代は「忙しすぎる」という割合が地区平均よりも高い。

- ▶ 約6割が「悩みなし」。
- ▶ 40～50代の会議出席・役員経験割合は他の世代よりも高い。

人は減っているのに、役割・仕事は変わっていないければ、負担感が増すのは当然。

☑女性・若者の声を反映されているかどうかについては、大半の年代で「されていない」の割合の方が高い。

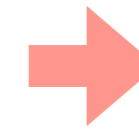
- ▶ 30～60代でこの傾向は顕著。
- ▶ ただし、全体の6割が「わからない」と回答。



声を反映させる機会の充足・工夫が求められている！

☑地区全体では5割以上が、移住・定住者の受け入れが必要と考えている。

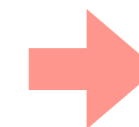
- ▶ 世代間で極端な差はないが、男性は強く必要だと思っている。



多くの世代で必要性を感じているものの、男性は積極的だが女性は慎重姿勢？

☑他地域との交流の必要性については、「わからない」が最多（4割）。

- ▶ 30代は肯定的。
- ▶ 40代以上は男性は肯定的だが女性は消極的。
- ▶ 20代は否定的。



世代によって意見は分かれている。

☑この地域に「住み続けたい」は半数以上。しかし、20代以下の定住意向はかなり低い。

- ▶ 30代男性・40代女性も定住意向は低い。
- ▶ ただし、これらの世代は「わからない」という回答が5~6割。

☑「自分の子どもにも住み続けてほしい」と回答は4割未満。しかし、50代以下は「思わない」の割合がかなり高い！

- ▶ 20代・40代男性・50代女性は、「住み続けてほしいとは思わない」の割合の方が高い。60代女性・70代女性も3割以上。
- ▶ ただし、これらの世代の3~5割は「わからない」と回答。

☑「地域に愛着がある」は半数以上。ただし、若年層は低い。

- ▶ 20代以下は、愛着なしが3~4割。30~50代は男高女低。
- ▶ 「誇りに思う地域資源」については、各資源を誇りに思っているかどうかは、世代によって大きく認識が違う。壮年世代が誇りに思っている資源を、若年・中堅世代はそのように認識していない。

親世代の意向が子世代に影響している可能性大。

「わからない」が多いということは、これからの取り組み次第！

若年層が、定住意向は低く、地域への愛着度も低い状況では、人口流出に歯止めはかからない。

☑暮らしの中の困りごとトップ5は、

- ①屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
- ②商店が少なく、日常の買い物が不便
- ③健康面への不安
- ④病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる
- ⑤仲間と気軽に集まる場所がない

☑今後、重点的に取り組むべきテーマトップ5は、

- ①状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動
- ②買物・通院など、移動支援活動
- ③草刈り・消雪パイプなど、道路・河川の維持管理
- ④住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動
- ⑤特産品の開発など、地域の産物を販売する活動

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

ただし、世代によって上位にランキングされている内容はかなり異なる。（特に若年層）若年層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。